

2005年6月期決算説明会



2005年8月29日

株式会社インターネット総合研究所

(注) 当資料は、当社の2005年6月期決算報告を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。この資料のいかなる部分も一切の権利は当社に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願い致します。また、本資料には2006年6月期の予想にかかわる記載がありますが、これはあくまでも当社の予想であり、その時々状況や多様な要因により変更を余儀なくされることがあります。なお、変更があった場合でも当社は本資料を改定する義務を負いかねますのでご了承ください。

目 次

- 1 . 決算概況
- 2 . 2006年6月期予想
- 3 . IRIグループ各社の状況
- 4 . IRIグループの全体戦略

1. 決算概況

1-1. 2005年6月期決算サマリー

(単位:百万円:百万円未満切捨)

		2005年6月期 通期実績	2004年6月期 通期実績	前年同期差
連結	売上高	18,822	18,525	+297
	営業利益	454	398	+852
	経常利益	523	600	+1,123
	当期利益	581	1,812	-1,231

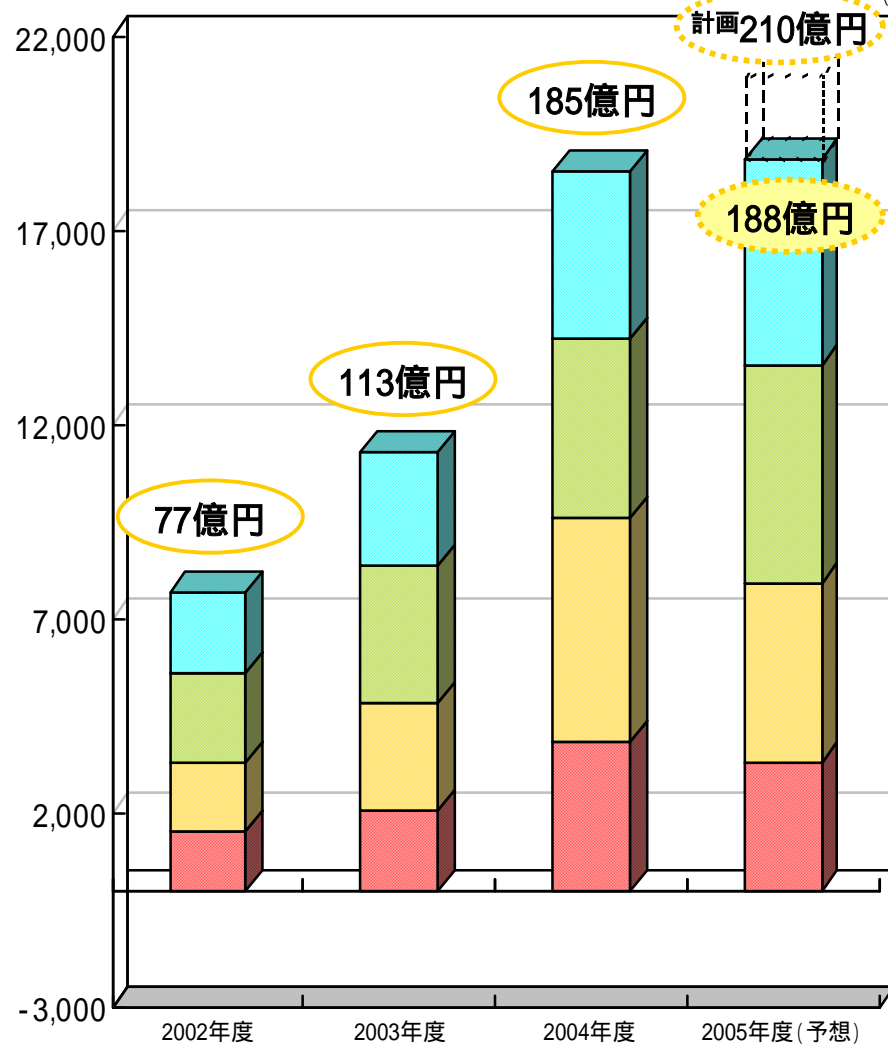
		2005年6月期 通期実績	2004年6月期 通期実績	前年同期差
単体	売上高	221	7,384	-7,163
	営業利益	586	478	-108
	経常利益	451	636	+185
	当期利益	5	39	-44

1-2. 通期業績推移の四半期内訳

■ 第1四半期 ■ 第2四半期 ■ 第3四半期 ■ 第4四半期

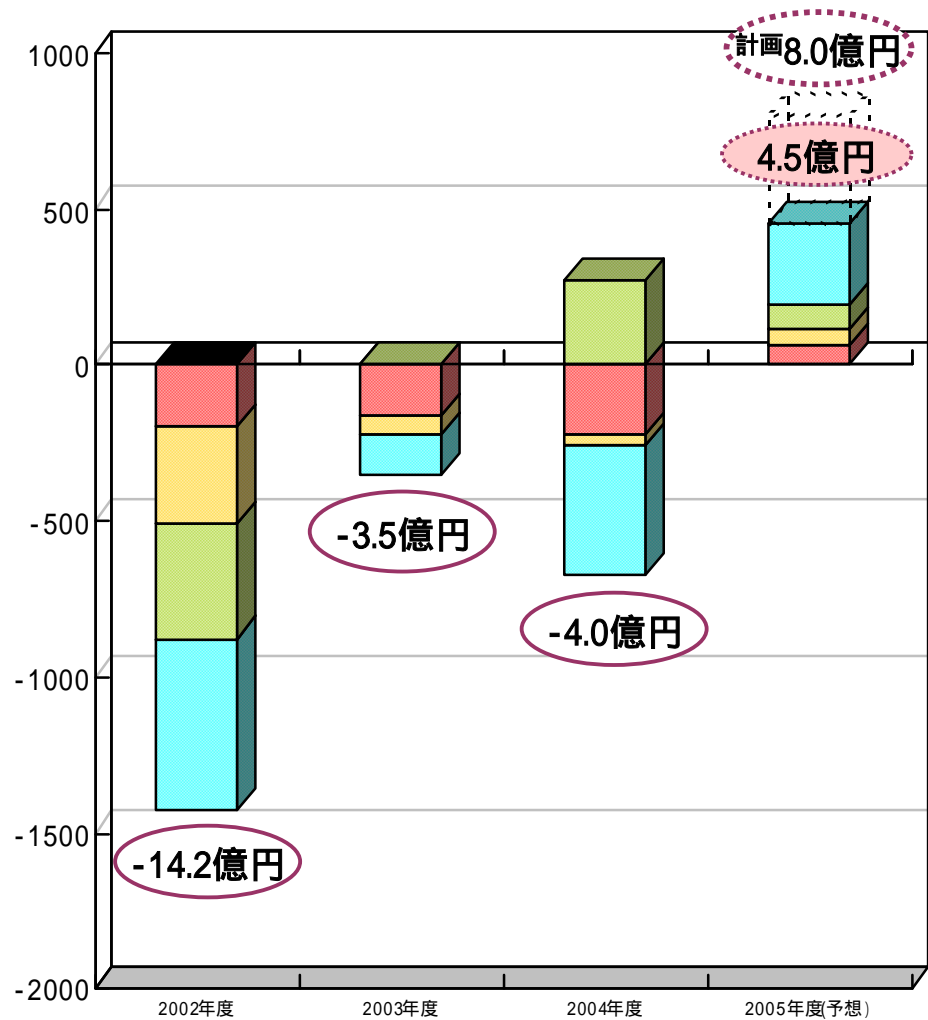
< 四半期別売上高推移 >

(単位:百万円)



< 四半期別営業利益推移 >

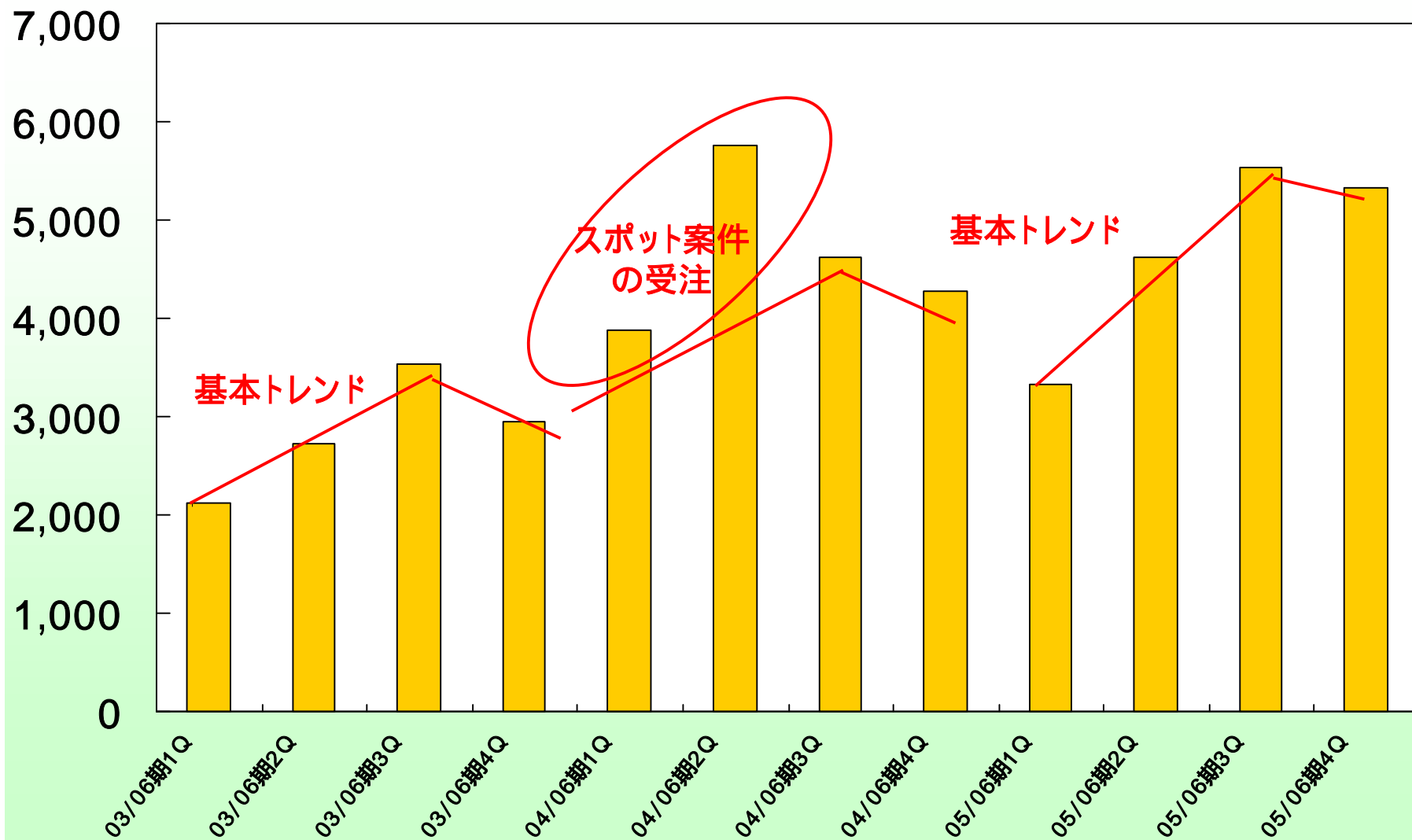
(単位:百万円)



1-3. 四半期業績推移(売上高)

(単位:百万円)

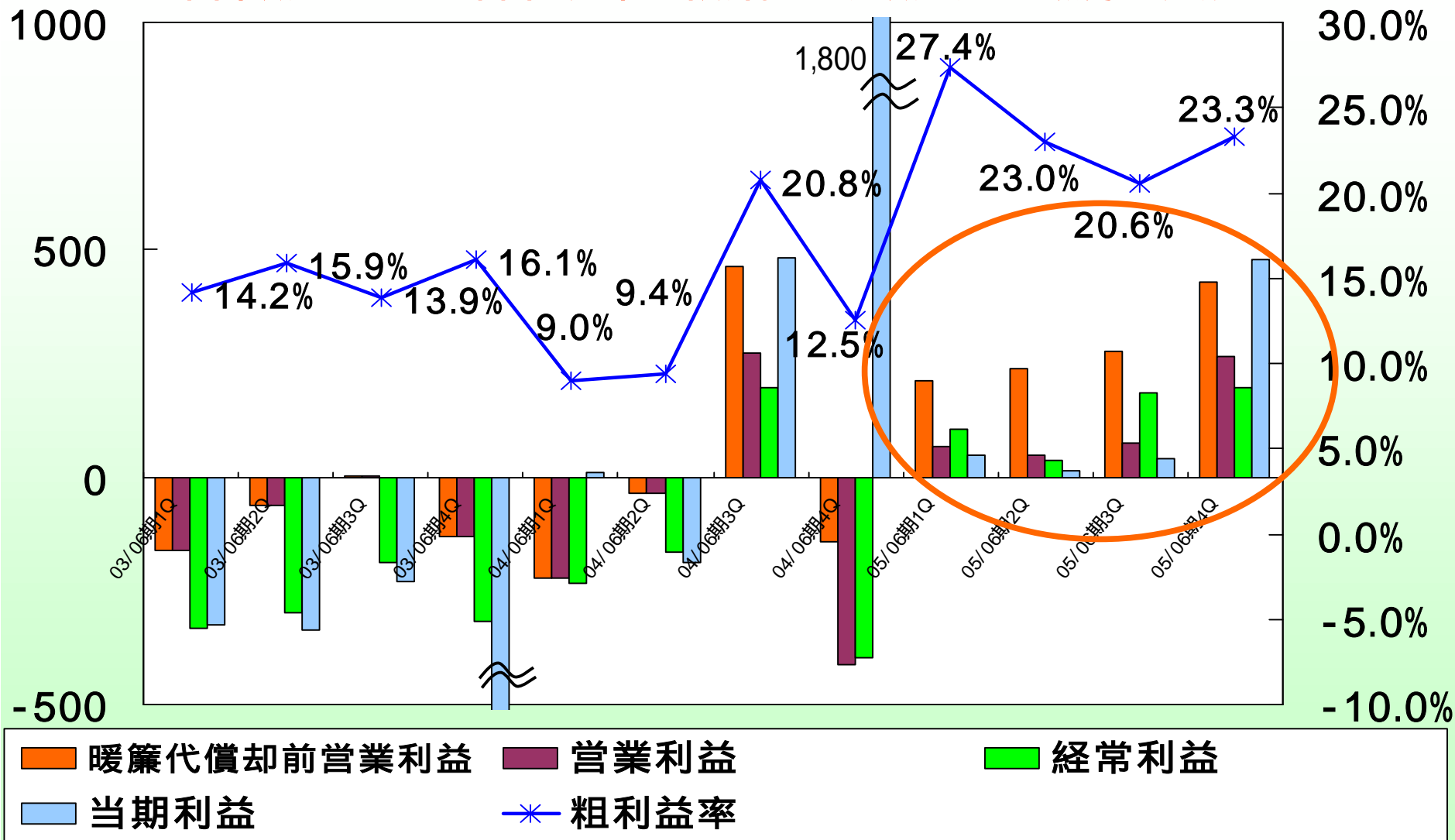
前期のスポット案件を除けば売上高はトレンドに沿って成長している



1-4. 四半期業績推移 (利益)

(単位:百万円)

四半期ベースでの営業・経常・当期利益は通期を通して黒字を継続



1-5. 連結PL概要

(単位:百万円、百万円未満切捨)

	2004/6月期					2005/6月期					前年同期比
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	
売上高	3,871	5,762	4,615	4,278	18,525	3,334	4,598	5,538	5,350	18,822	102%
[IPネットワーク事業]	2,253	4,015	2,711	2,816	11,796	2,079	3,457	4,247	4,058	13,842	117%
[IPプラットフォーム事業]	1,615	1,744	1,901	1,458	6,719	1,252	1,114	1,240	1,241	4,849	72%
[その他事業]	2	2	2	2	9	2	27	50	50	130	1444%
売上総利益	347	544	958	534	2,382	913	1,058	1,141	1,245	4,359	183%
売上総利益率	9.0%	9.4%	20.8%	12.5%	12.9%	27.4%	23.0%	20.6%	23.3%	23.2%	180%
販管費	568	581	685	947	2,781	847	1,010	1,065	980	3,904	140%
営業利益	221	37	273	413	398	66	47	75	264	454	-
経常利益	233	166	197	399	600	106	34	183	198	523	-
当期純利益	10	187	483	1,507	1,812	48	13	40	478	581	32%
暖簾代償却費	0	0	191	271	461	144	191	201	166	703	152%
減価償却費	97	86	120	138	443	109	123	134	145	512	116%
暖簾代償却前営業利益	221	37	464	143	63	211	239	276	430	1,157	1837%
EBITDA	124	50	584	3	506	320	362	410	576	1,670	330%

- ・売上高:
- ・IPネットワーク事業: BBTower・IRI-CTの業績拡大、PoDの連結子会社化
- ・IPプラットフォーム事業: IRIユビテックでの映像エンジンシステムの売上減少(顧客企業からの生産受託製品の端境期にあたった)
- ・売上総利益: 売上総利益の前期比大幅増加 + 採算性の重視に伴う利益率の向上(12.9% 23.2%)
- ・営業利益: 連結子会社(PoD、ファイバーテック)増に伴う販管費増加やM&Aによる暖簾代償却費の増加を吸収し、当期は黒字転換
- ・経常利益: 前期は新株発行費を計上したことなどにより経常赤字だが、当期は黒字転換
- ・当期利益: 前期はパソナテック上場に伴う株式売却益(一時的な増益要因)があったため減益だが、当期は事業活動を通して黒字化
- ・EBITDA: 営業利益の黒字転換 + M&A暖簾代償却費の増加により大幅増加

1-6. 連結BS概要



((単位:百万円、百万円未満切捨)

(単位:百万円)	2004/6月期				2005/6月期				
	1Q	中間期	3Q	決算期	1Q	中間期	3Q	決算期	前期末比
流動資産	6,933	12,229	10,820	10,375	8,699	12,908	13,943	14,431	139.1%
うち 現金及び預金	2,256	5,004	4,047	3,988	3,939	5,637	5,566	6,043	151.5%
うち 受取手形及び売掛金	3,513	6,227	5,654	5,555	4,010	4,083	5,024	4,971	89.5%
うち その他の流動資産(含 前払費用)	526	355	494	329	463	2,832	2,910	2,845	864.7%
固定資産	4,287	4,342	5,981	6,623	7,056	8,739	8,960	9,304	140.5%
うち 有形固定資産	2,250	2,243	2,295	2,311	2,404	2,572	2,596	2,763	119.6%
うち 無形固定資産	50	194	2,000	1,787	1,663	2,107	2,000	1,810	101.3%
うち 投資その他資産	1,986	1,904	1,685	2,524	2,988	4,059	4,363	4,731	187.4%
繰延資産	---	---	---	---	---	16	15	13	---
資産合計	11,220	16,572	16,802	16,999	15,756	21,664	22,918	23,749	139.7%
流動負債	4,773	7,785	6,943	5,541	4,141	3,833	5,028	5,030	90.8%
うち 支払手形及び買掛金	2,801	5,676	5,027	4,226	2,803	2,333	3,551	3,594	85.0%
うち 短期借入金	990	1,040	600	100	100	243	232	253	253.0%
固定負債	749	633	565	607	523	4,993	4,900	4,815	793.2%
うち 新株予約権付社債	---	---	---	---	---	4,500	4,500	4,500	---
負債合計	5,523	8,419	7,509	6,148	4,664	8,826	9,929	9,845	160.1%
少数株主持分	1,104	924	993	1,003	1,178	2,024	2,126	2,495	248.8%
資本金	2,226	3,640	3,843	3,855	3,866	3,900	3,906	3,920	101.7%
資本準備金	4,536	5,950	6,245	6,255	6,266	7,058	7,065	7,073	113.1%
利益剰余金	2,101	2,289	1,803	279	243	162	121	356	---
資本合計	4,592	7,229	8,298	9,847	9,913	10,813	10,862	11,408	115.9%

- ・流動資産の増加: 社債発行に伴う現金預金の増加、ファイナンス事業に係る前払費用の発生
- ・固定資産の増加: ファイバーテック買収に伴う暖簾代(連結調整勘定)の増加、ファイナンス事業に係る預託金の発生
- ・流動負債の減少: 買掛金の減少(対応する売掛金も減少)
- ・固定負債の増加: 新株予約権付社債の発行に伴う増加
- ・少数株主持分の増加: IRIユビテック上場及び株式の売却に伴う少数株主の増加、PoDの連結子会社化、BBTowerの業績拡大による同社純資産に係る少数株主帰属分の増加

1-7. 連結CF概要

(百万円未満四捨五入)

(単位:百万円)	2004/6月期	2005/6月期		前期比 (差引)	中間期比 (差引)
	決算期末	中間期末	決算期末		
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	514	1,902	991	-477	911
投資活動によるキャッシュ・フロー	680	826	1,160	-480	-334
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,949	4,205	4,031	1,082	-174
現金及び現金同等物に係る換算差額	5	4	1	6	5
V 現金及び現金同等物の増加額	1,748	1,472	1,880	132	408
現金及び現金同等物の期首残高	2,251	4,000	4,000	1,749	0
連結子会社増加による増加額	-	112	112	-	0
現金及び現金同等物の期末残高	3,999	5,584	5,992	1,993	408

前期との比較

- ・営業CFの減少: 営業利益は増加したが、ファイナンス事業に係る前払費用の支払あり
- ・投資CFの減少: ファイナンス事業に係る預託金の支出、投資有価証券の取得による支出
- ・財務CFの増加: 新株予約権付社債の発行

下期の状況 (中間期との比較)

- ・営業CFの増加: 営業利益の増加
- ・投資CFの減少: ユビテック上場に伴う所有株式の売出し(収入)、投資有価証券の取得による支出
- ・財務CFの減少: ユビテック上場に伴う少数株主からの払込収入、BBTower設備未払金の支払

1-8. グループ会社別業績内訳

(単位: 百万円: 百万円未満四捨五入)

	売上高				営業利益				経常利益				当期利益			
	2005年6月期			2004年	2005年6月期			2004年	2005年6月期			2004年	2005年6月期			2004年
	実績	期初予想	達成率	前期	実績	期初予想	達成率	前期	実績	期初予想	達成率	前期	実績	期初予想	達成率	前期
IRI単体	222	780	28%	7,384	-586	-390	N/A	-478	-452	-390	N/A	-636	-6	-390	N/A	39
BBTower	4,861	4,400	110%	3,006	628	383	164%	294	607	338	180%	251	613	328	187%	303
IRIユビテック	4,441	6,500	68%	6,499	502	500	100%	430	466	500	93%	427	266	300	89%	303
BBX(1)				971				-458				-446				-455
IRI-Com(1)	7,929	8,200	97%	774	117	500	23%	-151	154	500	31%	-154	-35	450	N/A	-185
IRI-CT	701	660	106%	480	37	50	74%	12	36	49	73%	11	30	49	61%	10
その他(2)	1,153	460	251%	22	83	28	296%	-22	84	27	311%	-23	33	27	122%	-23
合計[単純合算]	19,306	21,000	92%	19,136	743	1,071	69%	-373	859	1,024	84%	-571	872	764	114%	-12
連結修正仕訳	-484			-616	-288	-271		-23	-335	-324		-30	-292	-364		1,824
連結合計	18,822	21,000	90%	18,525	455	800	57%	-398	524	700	75%	-600	581	400	145%	1,812

(1)2004年10月1日よりBBXとIRI-Comは合併

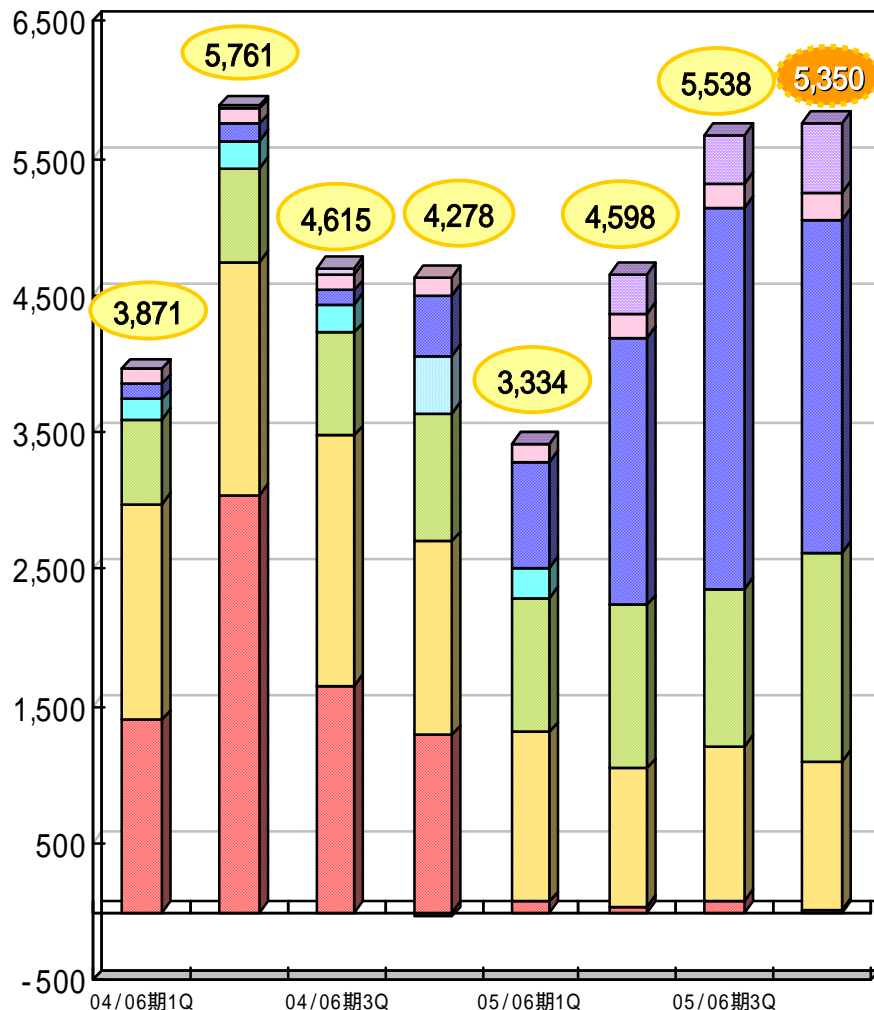
(2)その他は、IRI-USA、IRI-FT、IRI-FTA、PoD、ファイバーテック

1-9. グループ会社別四半期業績推移 (売上高・営業利益)

■ IRI本体
 ■ IRIユビテック
 ■ BBTower
 ■ BBX
 ■ IRI-Com
 ■ IRI-CT
 ■ その他

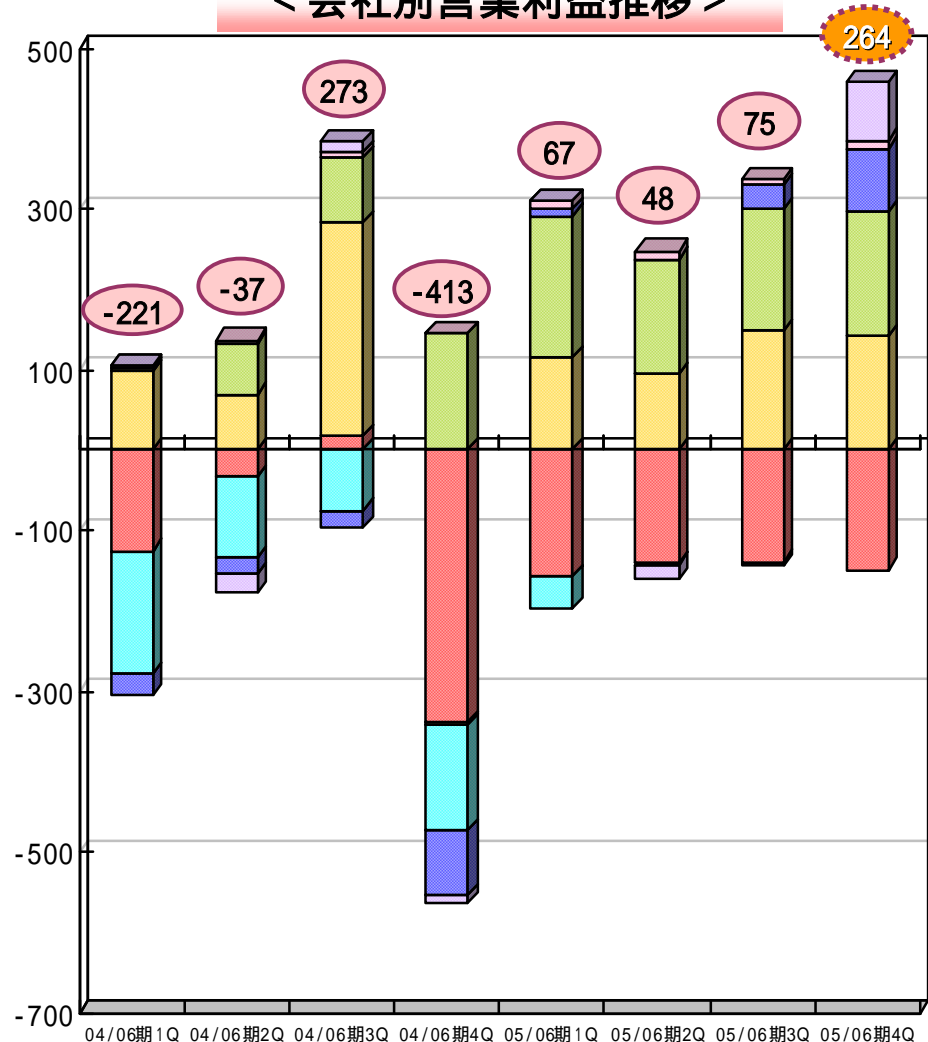
(単位:百万円)

< 会社別売上高推移 >



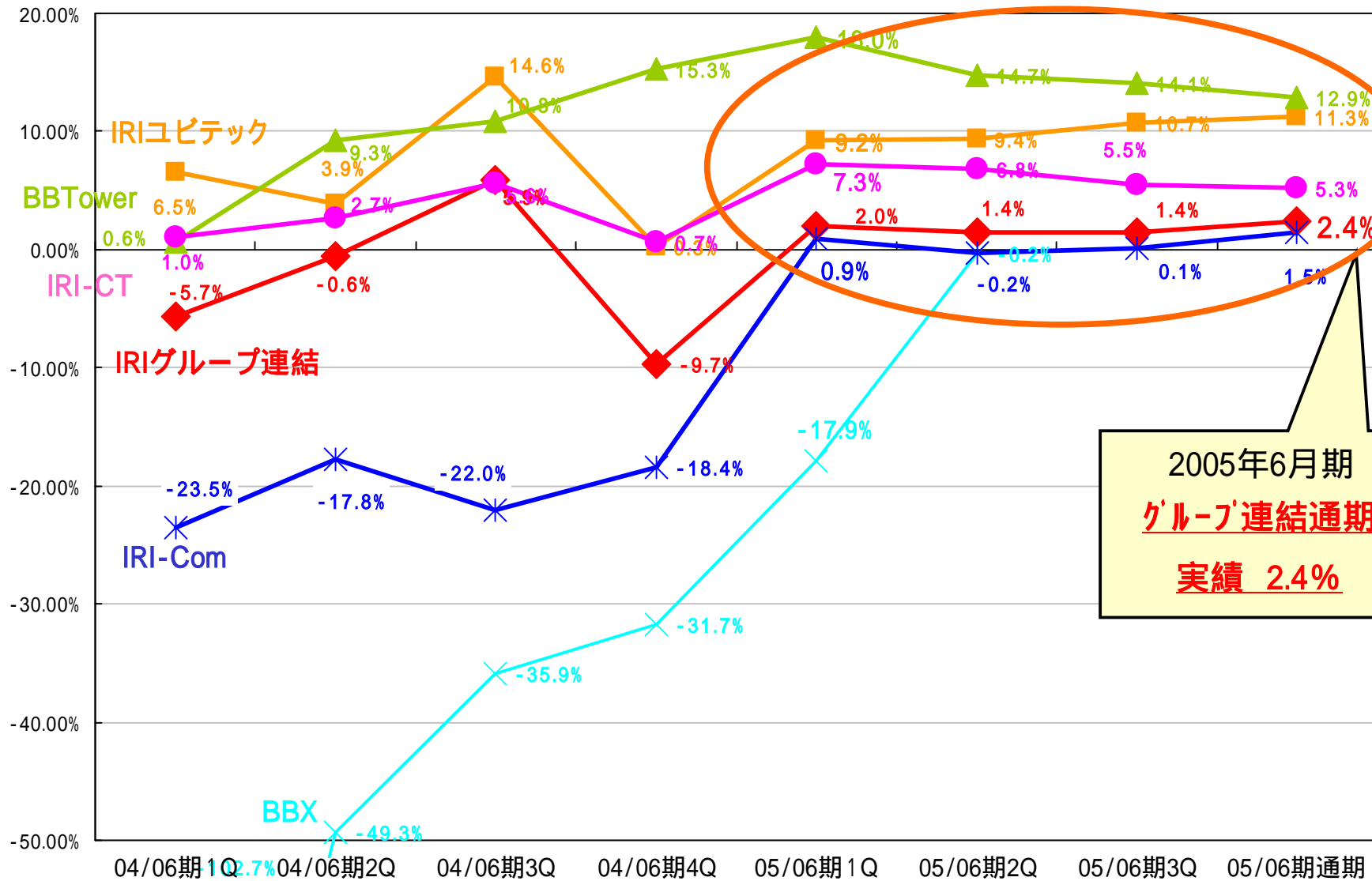
(単位:百万円)

< 会社別営業利益推移 >



() グラフはグループ各社の単純積上げ数値(連結調整前)を表示

1-10. グループ会社別営業利益率の推移



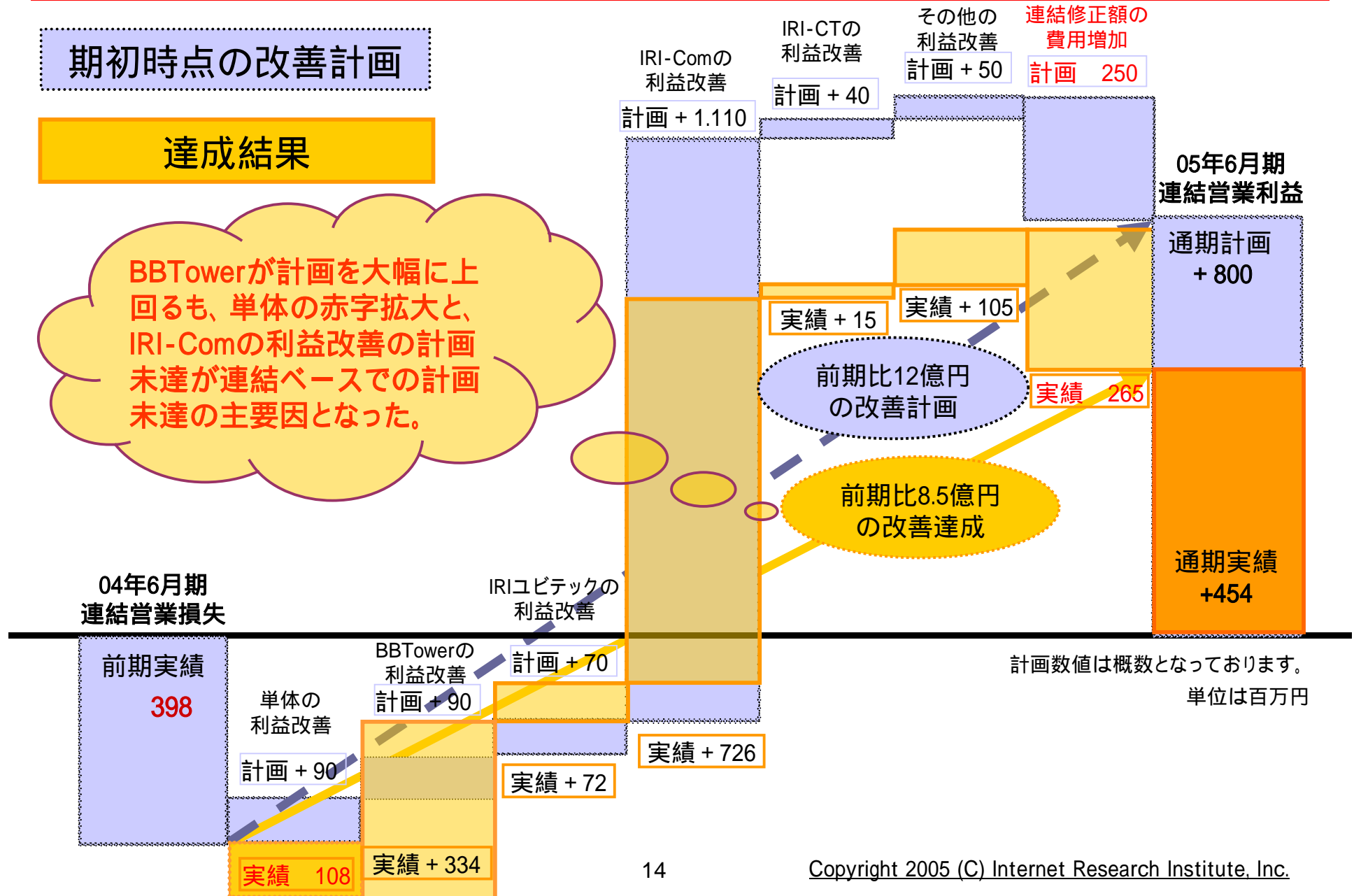
2005年6月期
グループ連結通期
実績 2.4%

1-11. 前期の営業利益改善計画の結果と要因分析

期初時点の改善計画

達成結果

BBTowerが計画を大幅に上回るも、単体の赤字拡大と、IRI-Comの利益改善の計画未達が連結ベースでの計画未達の主要因となった。



1-12. 連結グループ:財務ハイライト (2004年7月～2005年6月)



株式交換によるファイバーテックの完全子会社化

- ・IRIとファイバーテックとの資本および業務提携による医療分野におけるIP化による積極的な技術革新
- ・株式交換期日:2004年10月1日
- ・交付する新株式数:普通株式3,124.20株

IRIがジュリアーニ/セイジと資本業務提携し、IPシナジーファイナンス事業を共同展開

- ・“IPシナジーファイナンス™”事業を展開し、パートナー企業群への経営刷新と企業価値向上を支援
- ・IPシナジーファイナンス事業を展開するにあたりファンドマネジメント会社IRI Finance And Technology Asiaを共同設立。(設立日2004年11月15日)

円貨建転換社債型新株予約権付社債の発行

- ・Stanfield Financial Inc.(ジュリアーニ・パートナーズ/セイジ・キャピタルグロースのグループ会社)への割当
- ・払込期日および発行日:2004年12月1日 ・社債の総額:45億円 ・転換価額127,730円(注:株式分割調整後)

株式分割を発表

- ・IRI株式の流通向上性および株主数の増加を図ることを目的
- ・2005年6月30日時点の株主に対し1株につき2株の割合をもって分割(効力発生日は2005年8月19日)

SBIベンチャーズとの業務提携

- ・ソフトバンク・インベストメント(SBI)の100%子会社であるSBIベンチャーズ(SBIV)が組成・運営するブロードバンド関連ファンド(SBIブロードバンドファンド1号投資事業有限責任組合)へ出資

IRIユビテック大証ヘラクレスへ上場

- ・上場日:2005年6月14日、公募価格550,000円に対し、初値2,490,000円
- ・IRIからの売出し株数:800株

1-13. 連結グループ:財務ハイライト (2005年7月～現在)

BBTower大証ヘラクレスへ上場

- ・上場日:2005年8月3日、公募価格1,050,000円に対し、初値3,030,000円
- ・IRIからの売却株数:300株

YOZAN,IRIグループ間における業務・資本提携

- ・ポスト3Gモバイル事業の共同推進:WIMAXの商用サービス実現に向けた技術的側面、コンテンツ流通機構の整備、顧客拡大策における支援
- ・YOZANがユビテックの発行済株式総数の1.31%に相当する普通株式を、IRIがYOZANの発行済株式総数の1.52%に相当する普通株式を相互に保有

公開買付けの実施、IXIとの資本及び業務提携

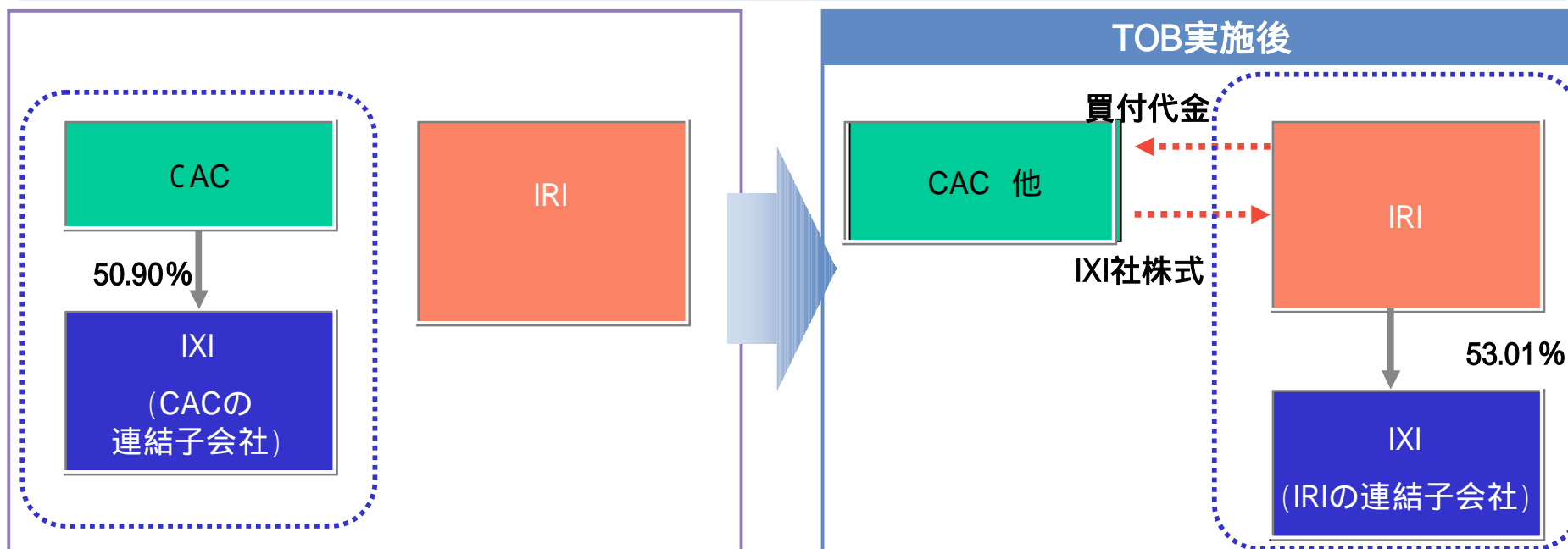
- ・両者が有するIPネットワークソリューションとIPネットワークサービスを提供し、GISエンタープライズ市場を開拓
- ・平成17年8月15日譲渡完了。買付価格:1株につき、330,000円
- ・買付後の所有株式数 35,254株(所有割合53.01%)

第1回無担保転換社債型新株予約権付社債の発行

- ・社債の総額:11,000,000,000円
- ・転換価額:当初176,000円 下限転換価額:88,000円 上限転換価額:228,800円
- ・資金使途:上記IXI公開買付けによる株式取得

1-14. 公開買付けの概要

- IRIは、(株)アイ・エクス・アイ(以下IXI)株式の50.90%を保有する(株)シーエーシー(以下CAC)他から**公開買付け**により株式を取得し、IXIを**連結子会社**とした。
- 決議日:7月15日
- 公告日:7月19日
- 買付価格:1株あたり330,000円
- 公開買付期間:平成17年7月19日から平成17年8月8日
- 結果公表日:8月9日
- 決済の開始日:8月15日



1-15.新連結会社:アイ・エックス・アイ

会社概要

商号	株式会社アイ・エックス・アイ (IXI Co., Ltd)
設立	平成元年7月15日
上場取引所	東証2部, 大証ヘラクレスG
売上高	17,628百万円 <平成17年3月期>
経常利益	1,389百万円 <平成17年3月期>
当期利益	770百万円 <平成17年3月期>
資本金	1,602,517千円 <平成17年4月1日現在>
従業員数	86名 <平成17年4月1日現在>
事業内容	各種情報システムの導入に関するコンサルタント業務 コンピュータソフトウェアの運用ならびに改善に関するコンサルタント業務 コンピュータソフトウェアの開発および販売 コンピュータ機器の販売、設置工事業 グラフィックデザインの企画および製作 航空運送事業
代表取締役社長	嶋田 博一
所在地	本社 〒532-0011 大阪府大阪市淀川区西中島6丁目1番1号 新大阪プライムタワー 東京支社 〒105-0012 東京都港区芝大門2丁目1番16号 芝大門MFビル
ウェブサイト	http://www.ixi.co.jp/
連結子会社	Xebex America, Inc. (Washington D.C.) ブルービーグル株式会社 BlueBEAGLE, Inc. (NY) 株式会社グローバルウイングス 18

2 . 2006年6月期予想

2-1. 2006年6月期業績予想

(単位:百万円)

	通期業績			中間期業績			
	今期予想	前期実績	前年同期差	今期予想	前期実績	前年同期差	
連結	売上高	46,300	18,822	+27,478	24,400	7,933	+16,467
	営業利益	1,800	452	+1,348	400	114	+286
	経常利益	1,650	521	+1,129	250	141	+109
	当期利益	2,200	581	+1,619	2,000	62	+1,938

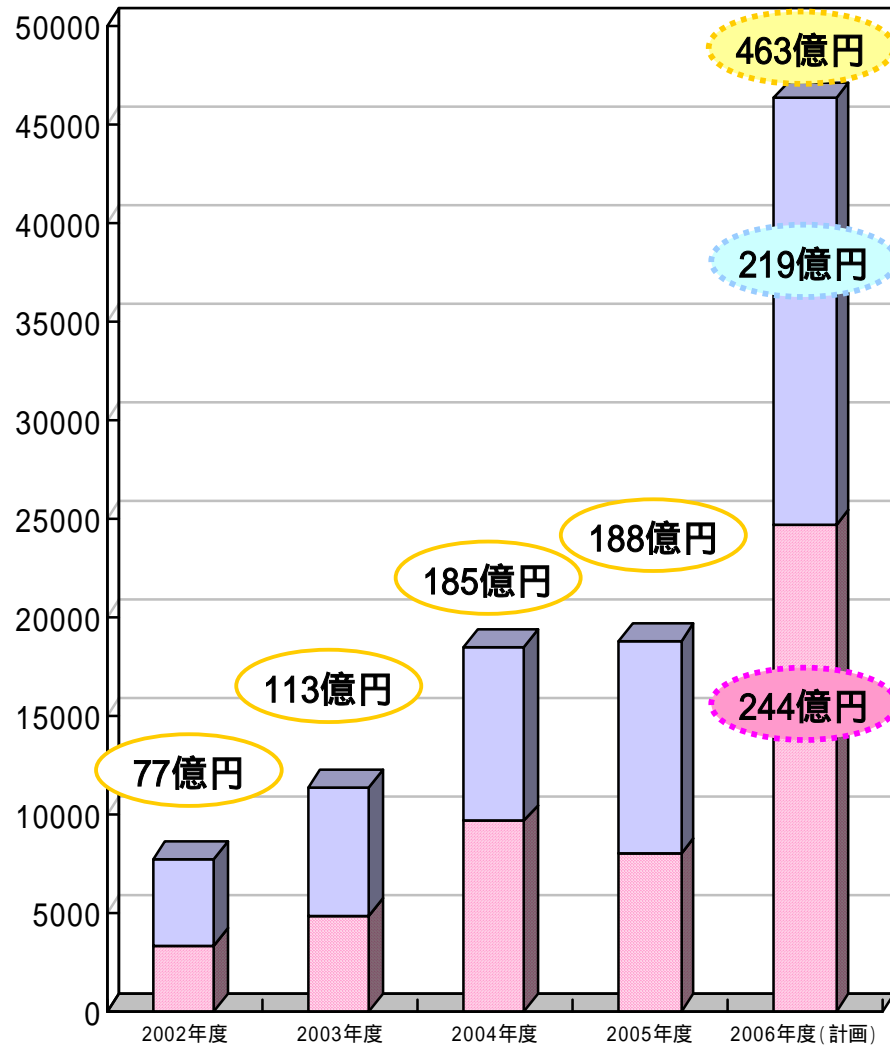
	通期業績			中間期業績			
	今期予想	前期実績	前年同期差	今期予想	前期実績	前年同期差	
単体	売上高	110	222	-112	60	116	-56
	営業利益	760	586	-174	450	299	-151
	経常利益	830	452	-378	520	251	-269
	当期利益	520	6	+526	830	124	+954

2-2. 今期業績推移の上・下期内訳

■ 上半期 ■ 下半期

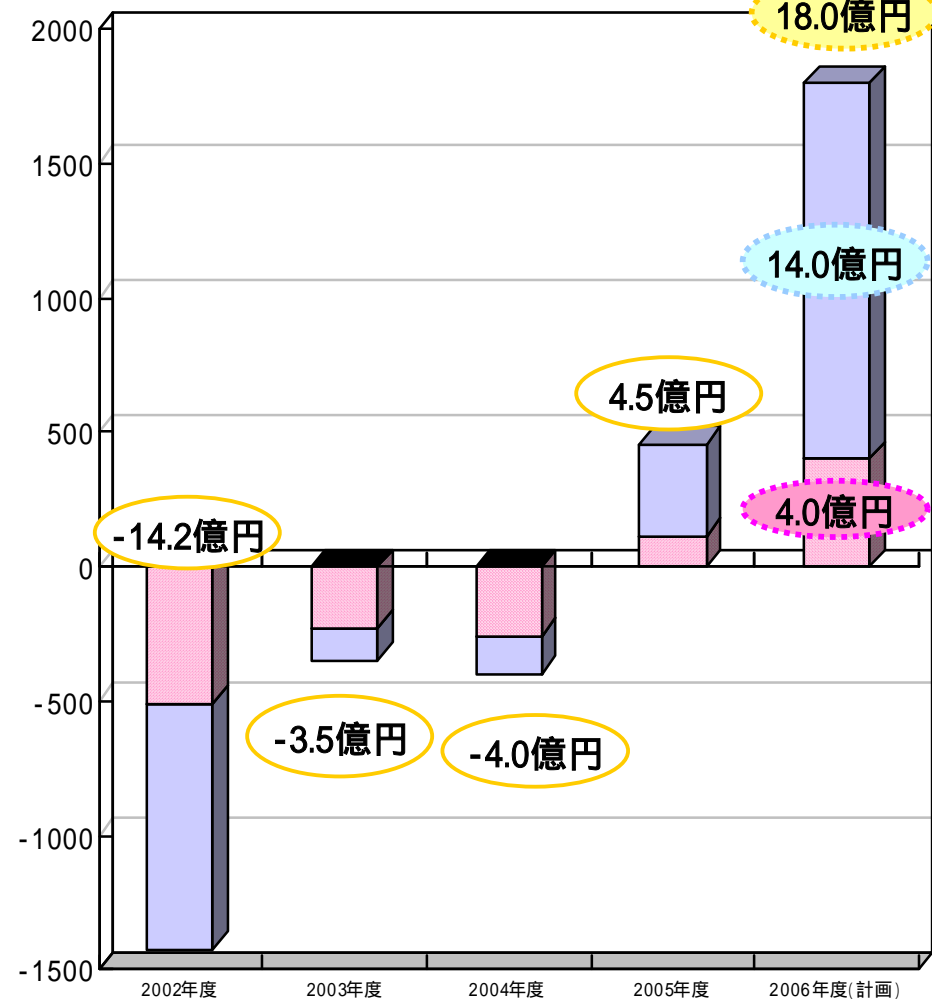
(単位:百万円)

< 半期別売上高推移 >



(単位:百万円)

< 半期別営業利益推移 >



2-3. 今期の連結グループ構成

グループ企業価値の最大化

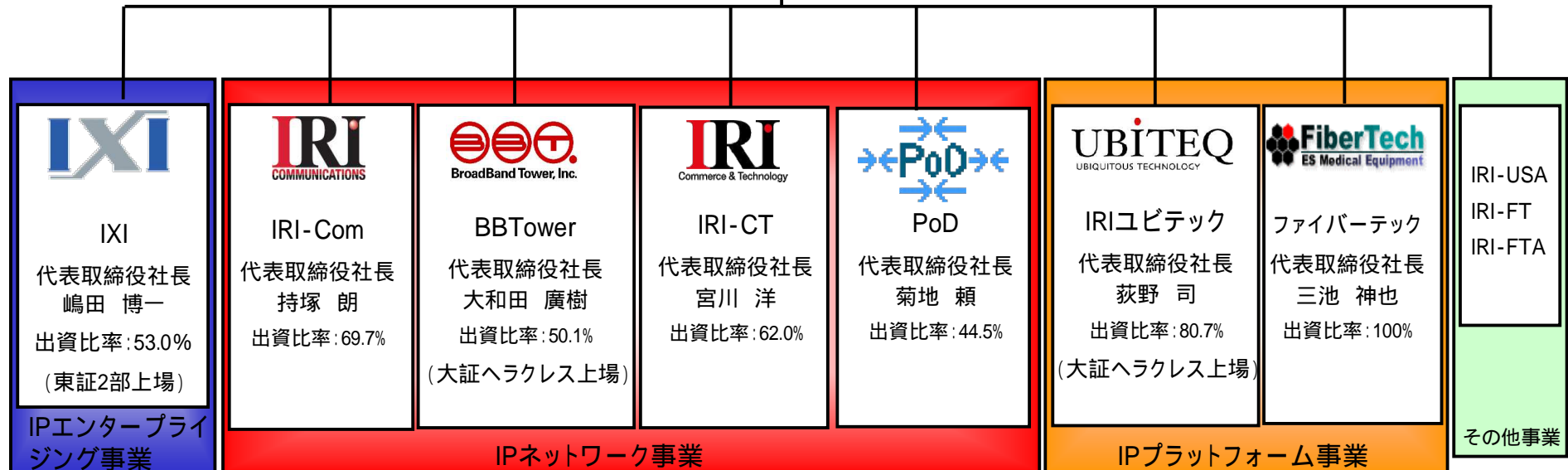
代表取締役所長
 藤原 洋
 (東証マザーズ上場)

- 本社機能
- < 財務機能 >
 - < グループ・ガバナンス機能 >
 - < 横断的な成長戦略の策定機能 >
 - < IPエンタープライジング™事業推進機能 >
 - < M&Aを積極活用した新事業の創出 >

グループ会社の役割を明確化した『連邦的独立経営』によりグループ企業価値の増大を目指す

出資比率: 本日 (8月29日) 現在

連結子会社群



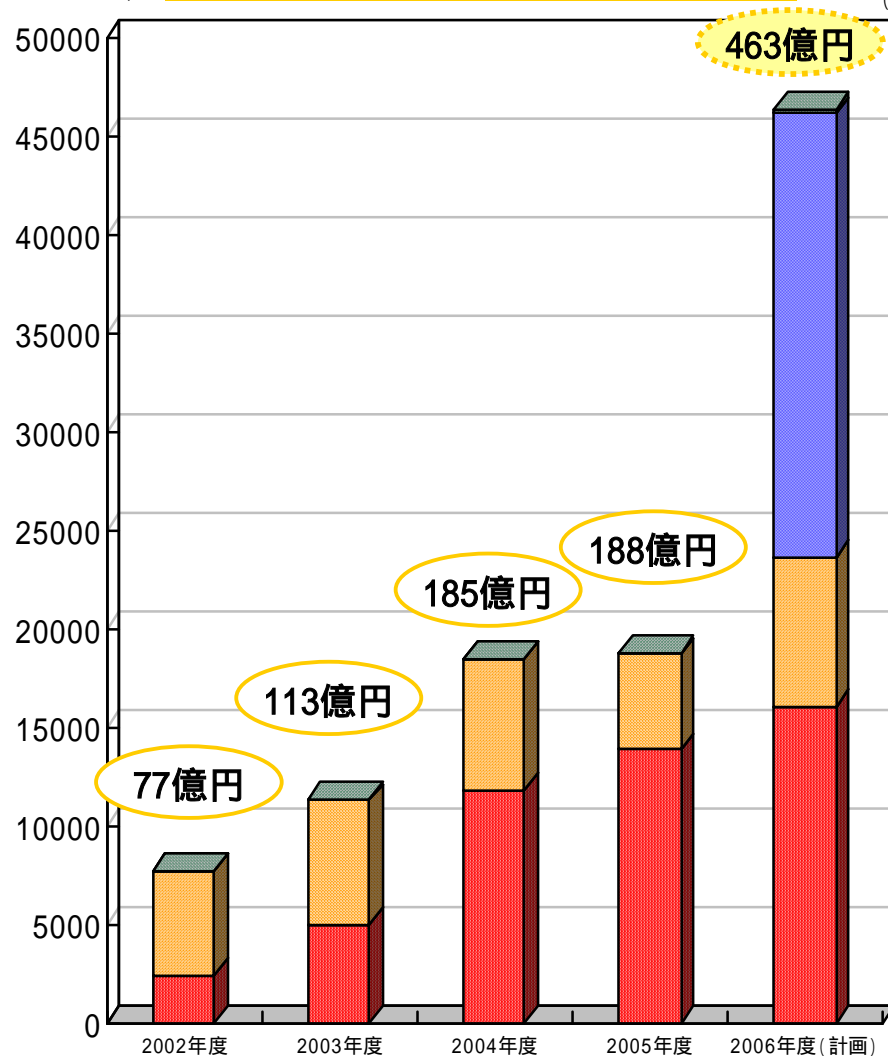
各グループ子会社は自己資金調達力を強化
 事業環境に即した効果的経営と迅速な意志決定を推進し事業強化を図る

2-4. 業績推移の事業別内訳

■ IPネットワーク事業
 ■ IPプラットフォーム事業
 ■ IPエンタープライジング事業
 ■ その他事業
 ■ 全社・消去

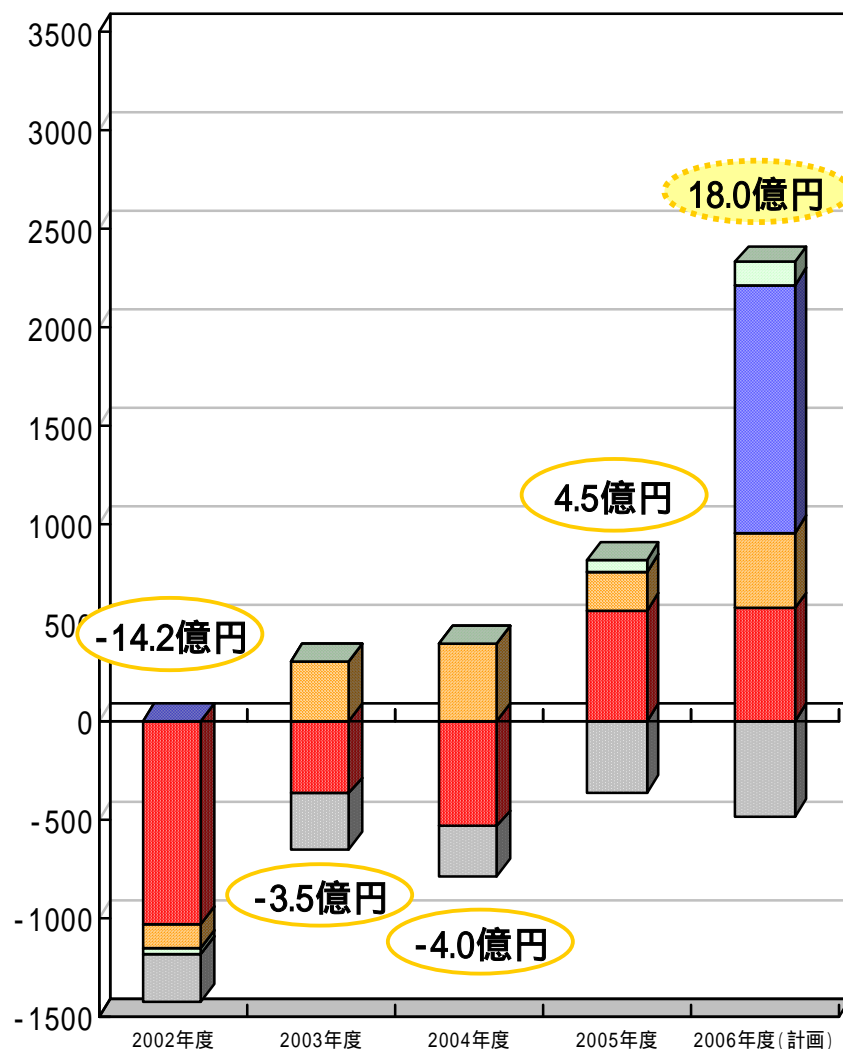
(単位:百万円)

< 売上高推移 >



(単位:百万円)

< 営業利益推移 >



2-5. 今期予想のグループ会社別内訳

IXIの連結算入と既存子会社の成長によりグループ連結で大幅な増収増益を計画

(単位: 百万円; 百万円未満四捨五入)

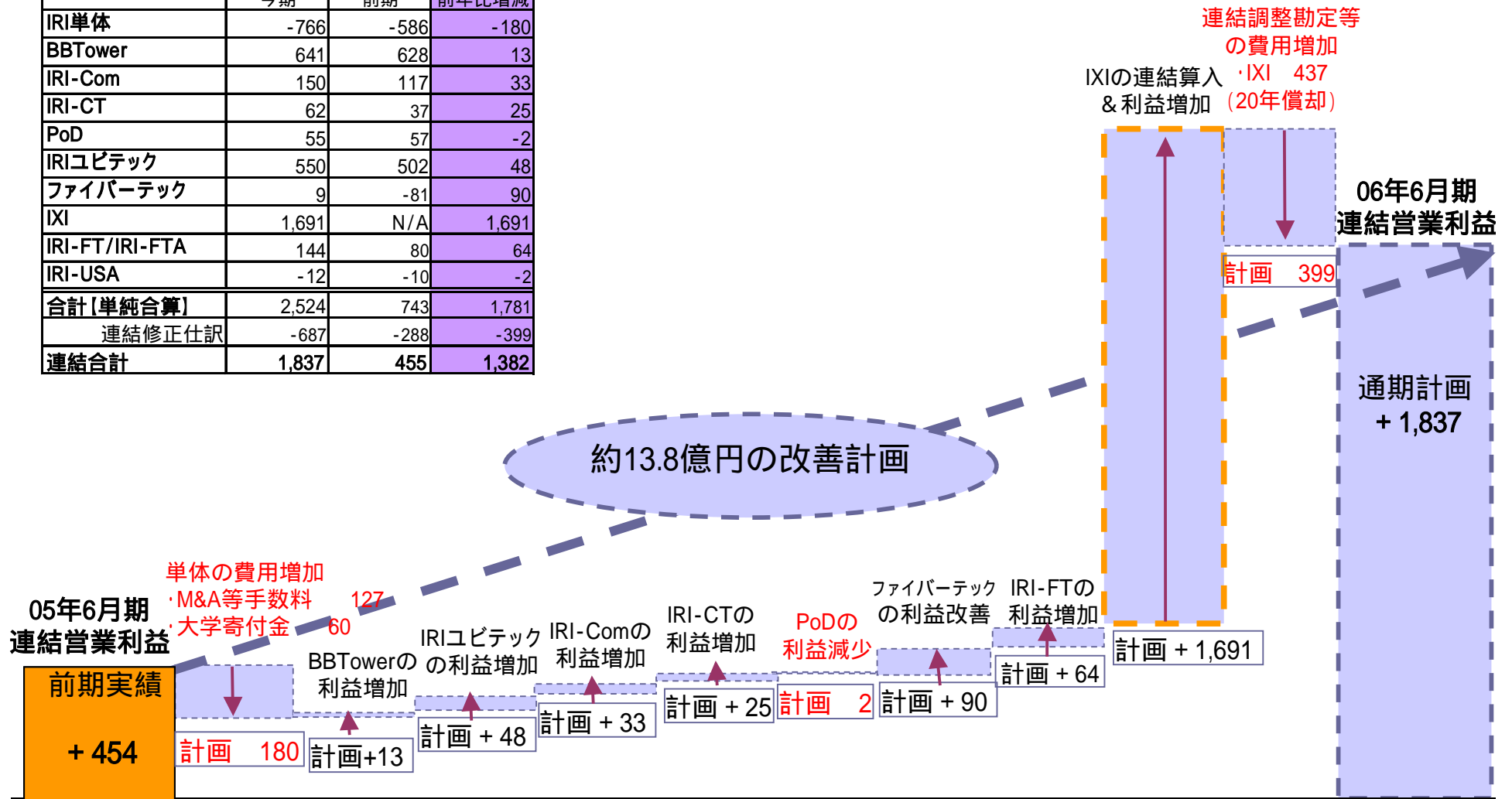
		売上高				営業利益				経常利益				当期利益			
		通期		中間期		通期		中間期		通期		中間期		通期		中間期	
		計画	前期	計画	前期	計画	前期	計画	前期	計画	前期	計画	前期	計画	前期	計画	前期
本体	IRI単体	115	222	61	116	-766	-586	-454	-299	-860	-452	-552	-251	523	-6	831	-124
IPネットワーク事業	BBTower	6,560	4,861	3,127	2,189	641	628	277	322	618	607	254	311	701	613	367	345
	IRI-Com	8,000	7,929	3,915	2,945	150	117	-115	-28	150	154	-115	-8	150	-35	-115	-20
	IRI-CT	931	701	436	304	62	37	26	20	61	36	26	19	60	30	26	19
	PoD	699	446	335	147	55	57	25	9	55	57	25	9	49	57	25	10
FOPプラットフォーム事業	IRIユビテック	6,665	4,441	2,714	2,234	550	502	217	210	541	466	213	220	315	266	121	120
	ファイバーテック	974	452	329	140	9	-81	-103	0	7	-79	-104	-28	7	-90	-104	-28
サブライセンス事業	IXI()	22,532	N/A	13,572	N/A	1,691	N/A	856	N/A	1,647	N/A	835	N/A	853	N/A	424	N/A
その他事業	IRI-FT/IRI-FTA	400	250	200	25	144	80	72	0	144	80	72	0	86	46	72	0
	IRI-USA	8	5	4	5	-12	-10	-6	0	-12	-10	-6	0	-12	-10	-6	0
合計[単純合算]		46,884	19,306	24,693	8,080	2,524	743	795	205	2,351	859	648	272	2,732	872	1,641	322
連結修正仕訳		-500	-484	-250	-147	-687	-288	-370	-91	-681	-335	-364	-131	-478	-292	359	-260
連結合計		46,384	18,822	24,443	7,933	1,837	455	425	114	1,670	524	284	141	2,254	581	2,000	62

IXIの2005年10月～2006年3月における業績予想数値は、同社が平成17年4月28日に発表した平成18年3月期業績予想における予想数値をもとに算出された数値であり、2006年4～6月における業績予想数値は、同社が平成17年4月28日に発表した平成18年3月期連結業績予想における下期予想数値に2分の1を乗じて算出された数値に基づいております。

2-6. 今期の営業利益のグループ改善計画

今期の営業利益改善計画

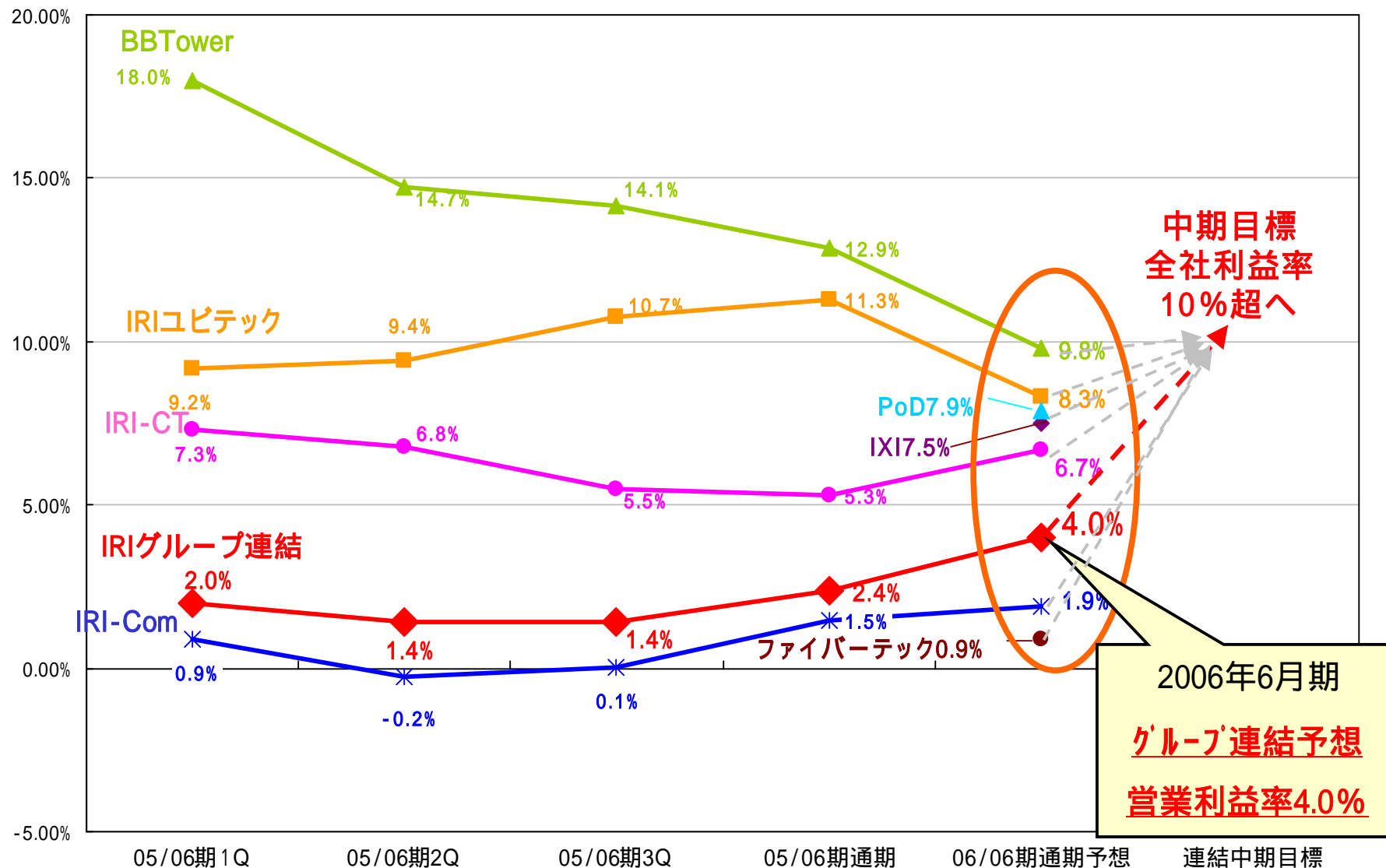
	営業利益		
	今期	前期	前年比増減
IRI単体	-766	-586	-180
BBTower	641	628	13
IRI-Com	150	117	33
IRI-CT	62	37	25
PoD	55	57	-2
IRIユビテック	550	502	48
ファイバーテック	9	-81	90
IXI	1,691	N/A	1,691
IRI-FT/IRI-FTA	144	80	64
IRI-USA	-12	-10	-2
合計[単純合算]	2,524	743	1,781
連結修正仕訳	-687	-288	-399
連結合計	1,837	455	1,382



単位は百万円

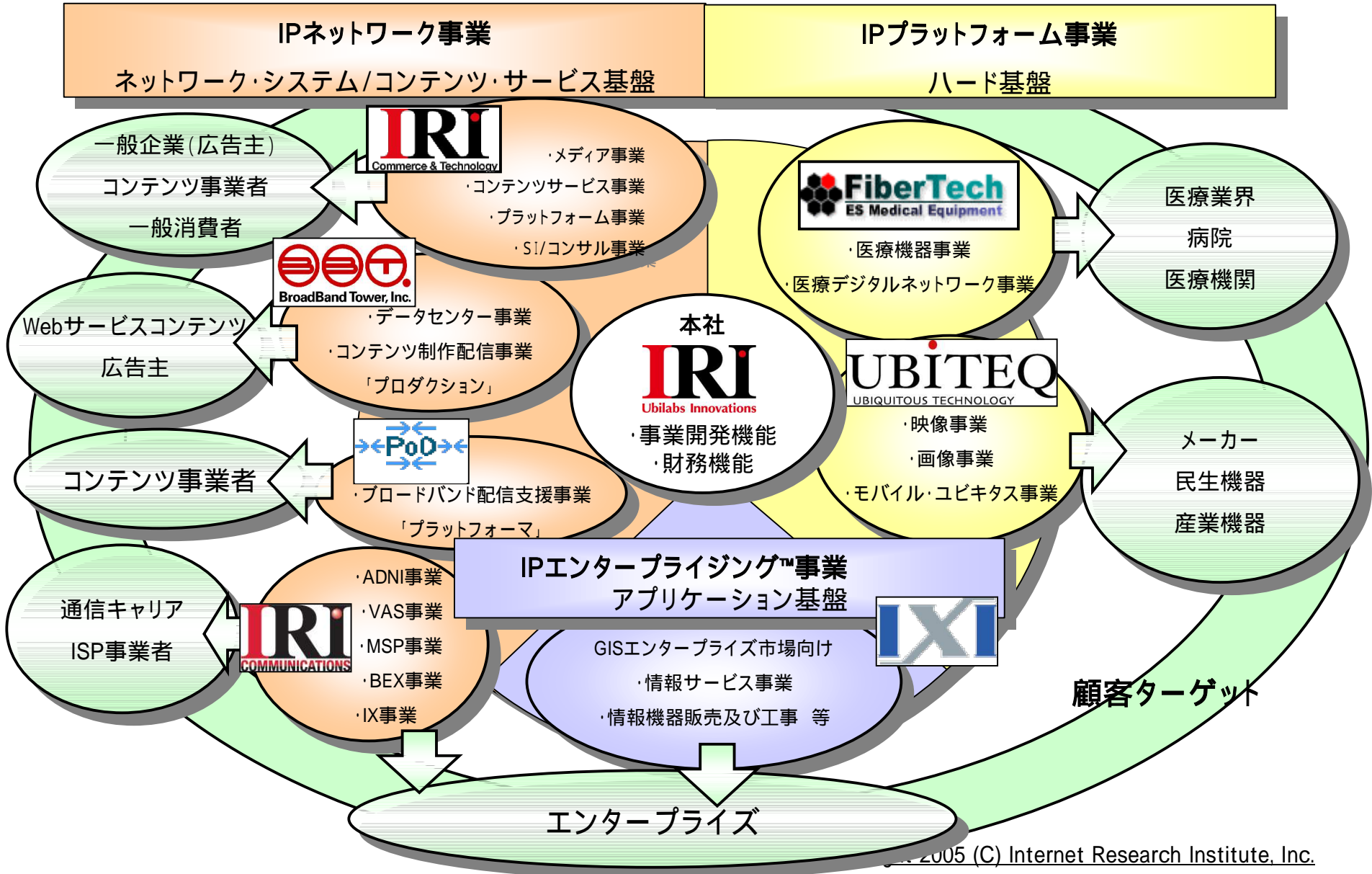
2-7. グループ会社別営業利益率の推移

今期の営業利益率は前年比で1.6ポイントの改善を計画



3. グループ各社の状況

3-1. グループ事業展開



3-2. トピック ブロードバンドタワー ~ IPネットワーク事業

2005年6月期実績 売上:4,861百万円 営業利益:628百万円



ニッポン・ニュー・マーケット「ヘラクレス」上場

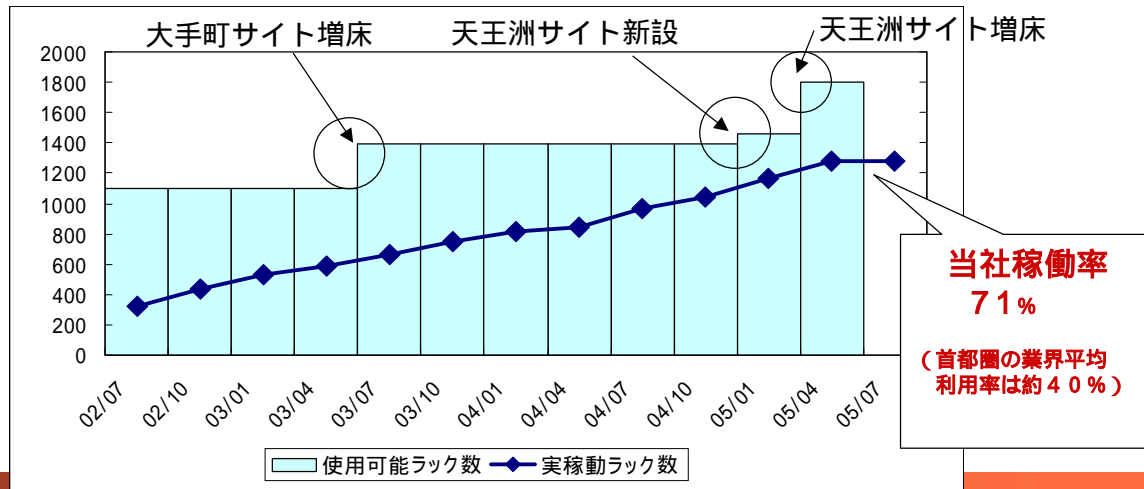
平成17年8月3日株式会社大阪証券取引所ニッポン・ニュー・マーケット「ヘラクレス」へ上場致しました。

データセンター事業 現在の稼働ラック数:1287ラック (2005年6月現在)

【トピックス】

ブロードバンド市場の拡大により、データセンター需要も堅調。稼働ラック数は順調に増加。
既存顧客の受注が拡大し、売上は増加

2004年11月第2サイト(天王洲)新設、2005年4月増床。



ブロードバンド配信事業

【トピックス】

映像コンテンツの企画・制作42本
ヤフー(株)と共同で「インターネットの夜明け」の企画・制作
音楽番組の企画・制作の提供開始



3-3. 計画・展望

ブロードバンドタワー ~ IPネットワーク事業



2006年6月期計画 売上:6,560百万円 営業利益:641百万円

事業別売上高 (百万円)	前期売上高 実績	今期売上高 予想	前年比
データセンター事業	4,317	5,846	35.4%増
稼働ラック数	1,287	1,893	47.1%増
ブロードバンド配信 事業	542	713	31.5%増
連結合計	4,860	6,560	35.0%増

データセンター事業

- ・既顧客の需要増への積極的な対応
- ・新規顧客の開拓
(主にサーバーを大量に保有する大口顧客)
- ・第3サイト新設(予定)

ブロードバンド配信事業

- ・オリジナル作品の企画・制作 50本予定 自社プロデュースの拡大
- ・配信ビジネスの拡大
- ・映画業界との連携強化によるメディアミックス戦略を推進

新規事業:子会社 (株)ビービーエフ 設立

1. 子会社の概要

商号:株式会社ビービーエフ
 設立時期:平成17年10月初旬(予定)
 資本金:1億5千万円
 株主構成:
 株式会社ブロードバンドタワー96.67%
 (有)アガリデザイン3.33%
 主な事業内容:ファッションECサイトの運営

2. 設立理由

新たな事業収益を確保するため、積極的に事業ドメイン拡大
 今回進出するファッション分野は、有望なビジネス分野であると判断
 ・ブロードバンド環境を利用により、従来のECサイトと差別化ができる
 ・当社が既に展開している映像、音楽分野と極めて近く、相乗的な効果を見込める

3-4. トピック IRIコミュニケーションズ ~ IPネットワーク事業



2005年6月期実績 売上:7,929百万円 営業利益:117百万円

BBX社と旧IRI-Com社を合併、従来のAdNI事業、MSP事業、VASサービスに、ISP・CATV等へのLayer3 IXサービスを提供するBBXサービスを加え、キャリア/ISPからエンタープライズに至る市場に対してIPベースのサービスを提供する

新サービス

- デジタルTVと最先端PDAを活用した『次世代オンライン・コミュニケーション・システム』を開発
 - 「資産運用コンテンツ」以外の他業種横展開を推進。富裕層向けの新しいメディアの創生を図る。
- MyAccessサービス
 - PHSインフラを利用して自動販売機、計測器、玩具などを遠隔から操作を可能にする仕組みとサービスを提供。
- 有料老人ホームのIT化推進サービス
 - 高齢者向け施設と医療機関、クリニックとのネットワーク化を実現し、入居者の健康管理情報の管理、メディカルケアサービス、旅行予約やショッピング等の生活情報を提供するコミュニケーションツールの構築、提供を行う。
- モバイルブロードバンドフルブラウザ
 - 英国ピクセル社の高性能レンダリングエンジンを利用した低スペック端末向けフルブラウザを提供。
- BEXサービスエリアを名古屋、関西地区へ拡大。新たに10Gbpsサービスの提供開始



新商品

<p>Allot</p>  <p>ネットワークに流れるトラフィック後をアプリケーション毎に細かく管理。帯域の有効活用が可能。</p>	<p>Juniper WX/WXC</p>  <p>データ圧縮 / 帯域制御 アプライアンス装置</p>	<p>FORTIGATE</p>  <p>世界初ASICベースのアンチウイルス・セキュリティ・ゲートウェイ</p>
<p>PIOLINK</p>  <p>専用設計ASICベースの高性能・低価格のL4-L7負荷分散装置。</p>	<p>ALL Watcher</p> <p>あなたの組織のネットワークセキュリティ、外からの守りだけで大丈夫ですか？</p>  <p>ALL Watcherは内部監視セキュリティの不安を解消します。</p> <p>PCの操作履歴を完全に把握、PCからの情報漏洩を未然に防ぐ</p>	<p>Webアプリケーション脆弱性対策</p>  <p>Webアプリケーションの脆弱性検査及び防御サービス</p>
<p>SPAM WATCHER</p>  <p>ダイナミックIPフィルタリング対応スパム対策ソリューション</p>	<p>XecureMedia</p>  <p>外部メディアへの書き出しの制御による情報漏洩の事前防止</p>	

3-5. 計画・展望

IRIコミュニケーションズ

～IPネットワーク事業



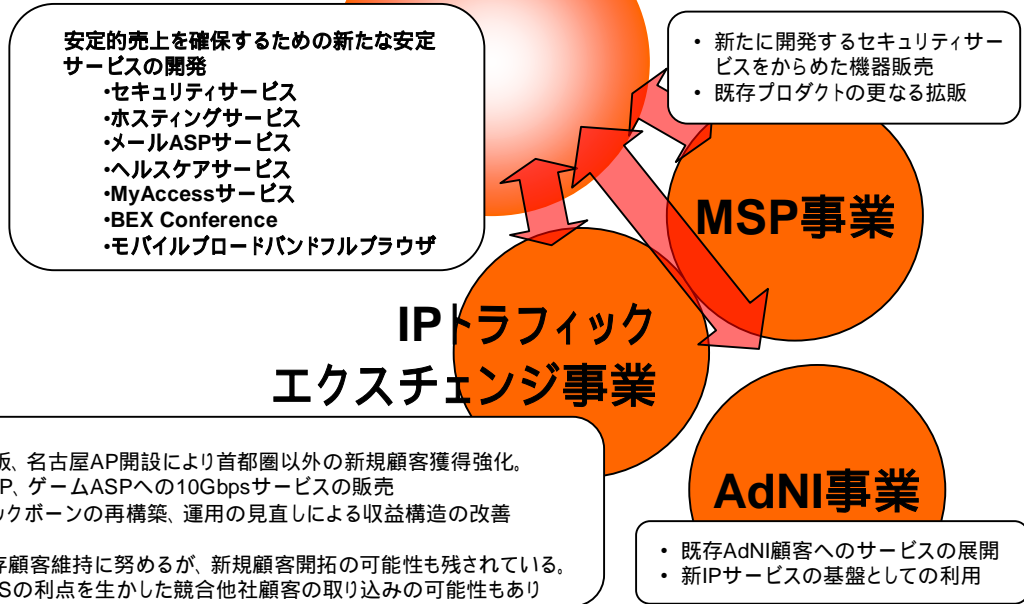
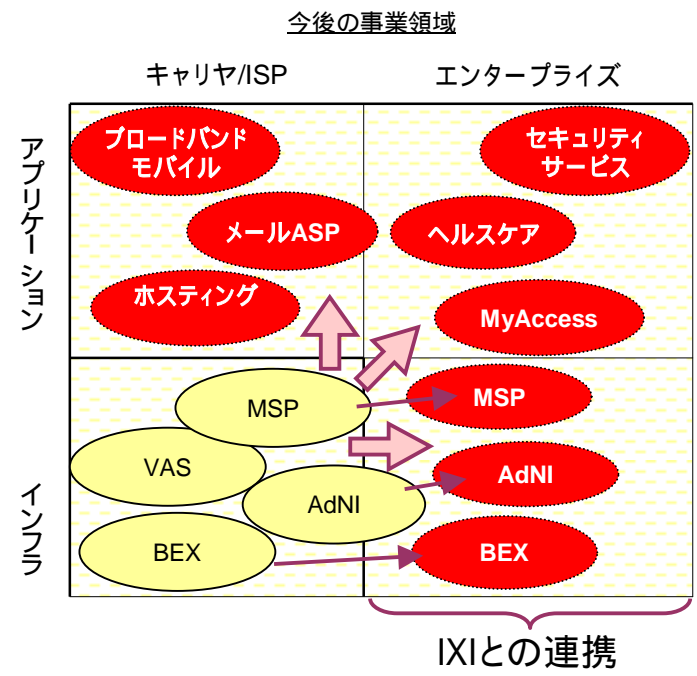
2006年6月期計画 売上:8,000百万円 営業利益:150百万円

事業別売上高 (百万円)	前期売上高実績	今期売上高予想	前年比
BBX事業	915	1,208	32.0%増
VAS事業	1,043	810	22.3%減
MS事業	249	546	119.2%増
AdNI事業	5,714	5,221	8.6%減
ASP事業	-	212	-
合計	7,961	8,000	0.9%増

No.1 IP Service Provider

既顧客現在の事業領域を発展させ、IPトラフィックエクステンジ事業は『さらなる売上拡大』、MSP事業は今後展開する『”新IPサービス”のサービス基盤の整備』、AdNI事業は新規顧客開拓と既存顧客から『あらたな収益の確保と客単価の増大』、そして、安定的売上を確保するための新たなサービスの開発を行い**No.1 IP Service Provider!**を目指す。

IPベースのサービスを多角的に展開する No.1 IP Service Provider!



3-6. トピック

IRI コマース & テクノロジー

～ IP ネットワーク 事業



2005年6月期実績 売上: 701百万円 営業利益: 37百万円



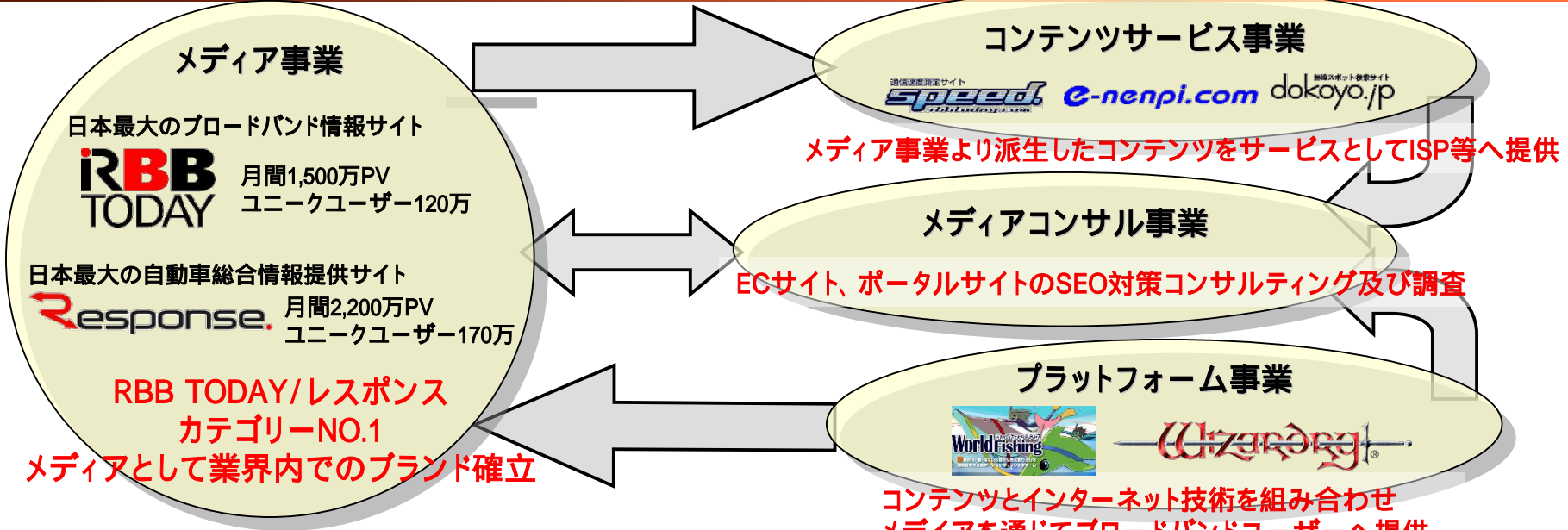
「RBB TODAY」「レスポンス」ニュースソースとしての地位確立
 各大手ポータルへニュース、サービスを提供



ニュースサイトとして各ポータル
 サイトへニュース記事やサービス
 を提供。RBB TODAY/レスポンス
 で9社へ提供。ニュースサイトとし
 ての地位を確立。



メディア事業が成長を牽引、他事業が順調に拡大



3-7. 計画・展望

IRIコマース&テクノロジー ~IPネットワーク事業

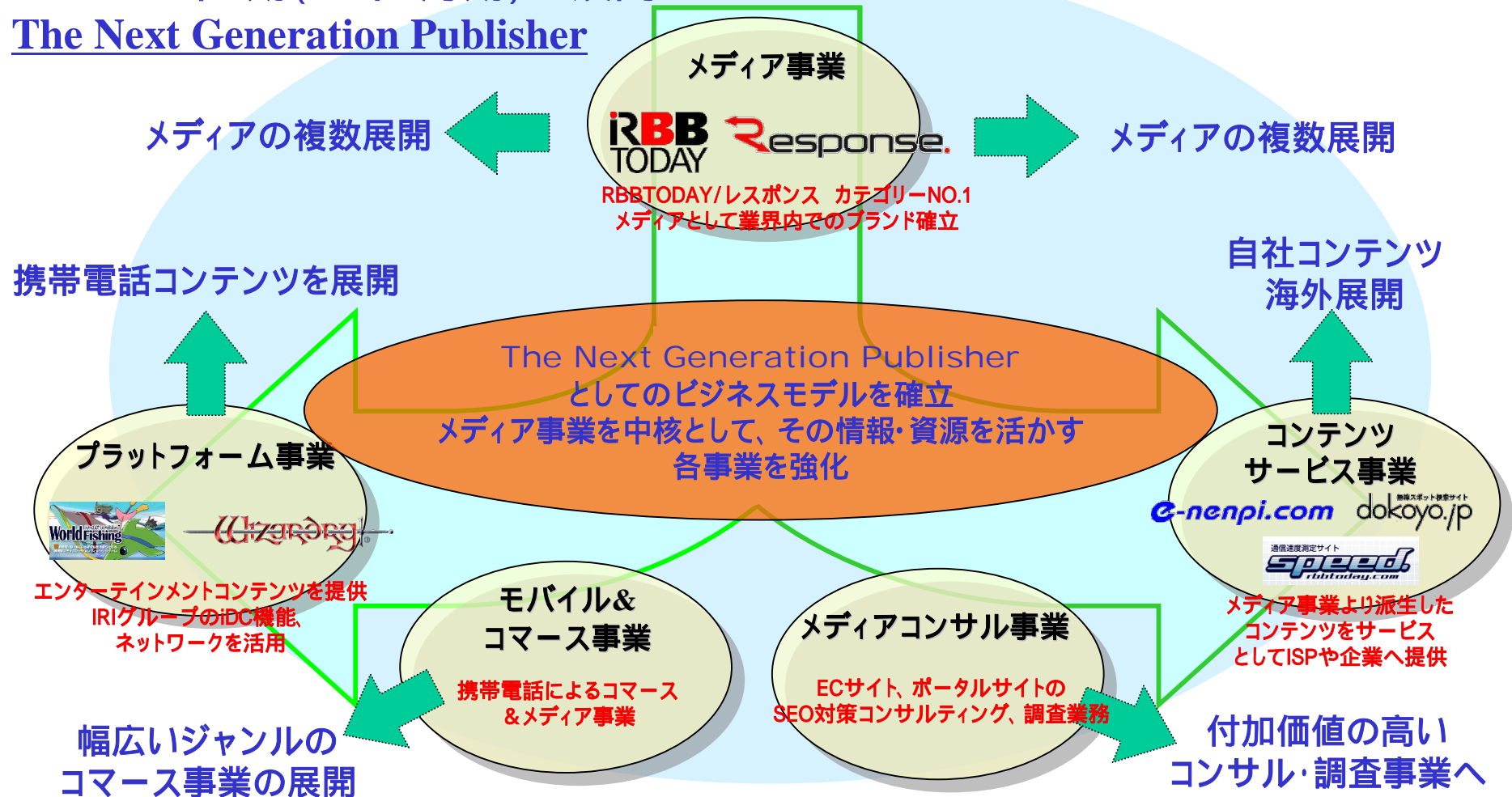


2006年6月期計画 売上:931百万円 営業利益:62百万円



メディア事業を中核として、各事業部門をそれぞれ強化

IRI-CT 第7期(06年6月期)の展開 The Next Generation Publisher



3-8. トピック プロデュース・オン・デマンド ~ IPネットワーク事業

2005年6月期実績 売上:446百万円 営業利益:57百万円



動画配信元年?: GyaOの動向が先導して地上波テレビ局各社がネット配信に参入

GyaOの動向

PoDが配信プラットフォームを提供しているUSENの広告モデル無料動画配信サイト「GyaO」は、4月25日から本放送を開始し、8月21日には、視聴登録者数170万人を突破している。
ネットレイティングス社の調査によれば、6月時点の月間PVで、YAHOO!streaming、BIGLOBEストリームなどをGyaOが抜き、名実共に日本最大の動画サイトになっている。

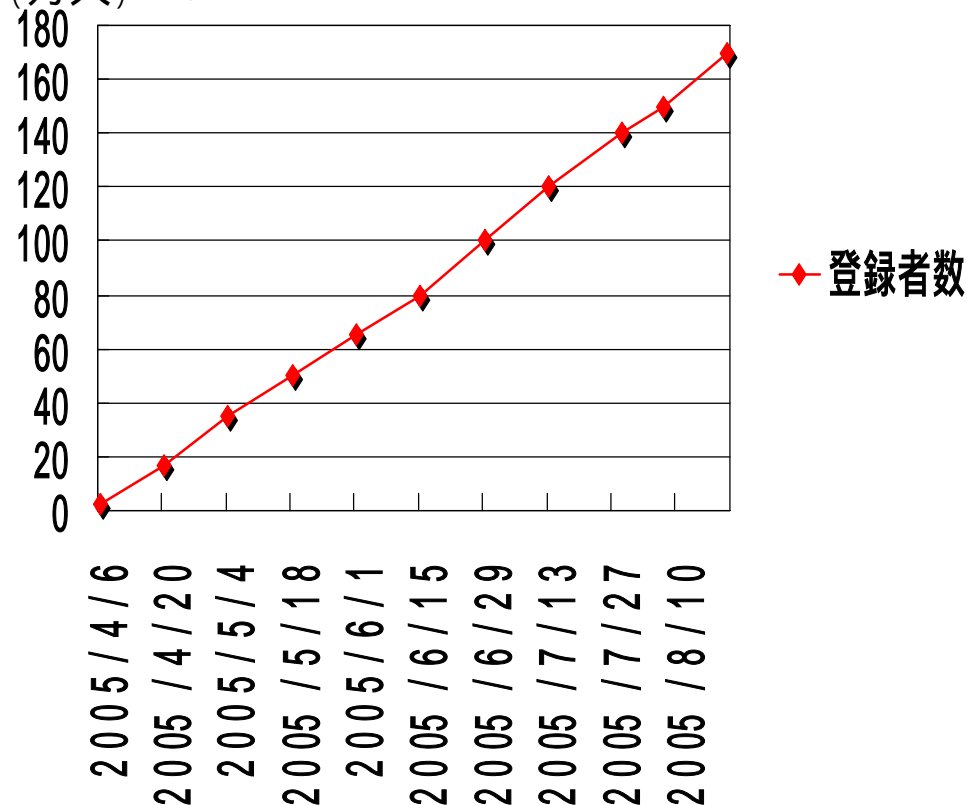
地上波テレビ局の動向

このような状況から、第2日本テレビ構想を始めとして、フジテレビ、TBSなど民放各社がネット配信への参入を表明しており、PoDの事業ドメインである動画配信市場は活況を呈している。

本事業におけるPoDの役割

技術的事業パートナーとして、動画配信プラットフォームに関し、無料配信による高トラフィックに耐えうる世界初の10GbE対応の配信サービスを提供している。

(万人) GyaOの登録視聴者数推移



2006年6月期計画 売上:699百万円 営業利益:55百万円



動画配信市場の追い風に乗リシェアの拡大を図る

– GyaO登録視聴者数の早期1000万人達成を始め、地上波テレビ局などネット参入するプレーヤーを顧客として獲得し、マーケット自体の拡大を図るとともに、自社のシェアを拡大する事を目標とする。

– このような、状況からトラフィックの飛躍的な急増が予測されるため、自社ネットワーク網の整備を進め、50Gbps～100Gbps程度の配信キャパシティが確保できる次世代の動画配信プラットフォームを構築する。



2005年6月期実績 売上:4,441百万円 営業利益:502百万円

UBITEQ
UBIQUITOUS TECHNOLOGY

ニッポン・ニュー・マーケット「ヘラクレス」上場

当社は、社会的信用度および知名度をあげ、優秀な人材を確保することを主たる目的とし平成17年6月14日株式会社大阪証券取引所ニッポン・ニュー・マーケット「ヘラクレス」へ上場致しました。

これを機に、弊社は間近に迫った、ユビキタス社会を構築するリーダー的な存在となり、皆様の生活やビジネスの基盤を支える重要な企業になるべく、役員をはじめ社員一同決意を新たに邁進してまいります。



(写真)上場記念式典における関係者全員での「大株締め」

その他の前期トピック

平成16年7月 タウ技研からIRIユビテックへ社名変更

ユビキタス時代の到来に先駆け、新たなるビジネス創造による飛躍と創業から一貫して守り通してきましたテクノロジーへのこだわりを貫きとおす事を目指し、平成16年7月1日をもちまして社名を「タウ技研株式会社」から「株式会社IRIユビテック」へ改称いたしました。

平成16年9月 松下電工株式会社の資本参加

ビジネスの連携強化と成長戦略のシナジーを期待し、松下電工株式会社様より当社に対し資本参加いただきました。現在、松下電工様とは次世代ネットワークプロトコル「IPv6」対応の省エネルギーシステムBuilding eXchange (通称BX)を共同開発しており、昨年11月には東京国際フォーラムにおいて開催されたGlobal IP Business Exchangeにおいて試作機を出展致しました。

平成16年10月 三井物産株式会社の資本参加

ビジネスの連携強化と成長戦略シナジーを期待し、三井物産株式会社様より当社に対し資本参加いただきました。三井物産様とは、リアプロジェクション向け映像光学モジュール開発において、Carl Zeissと3社で業務提携を行っており、今後この分野でのビジネス拡大を目指しております。

2006年6月期計画 売上:6,665百万円

営業利益:550百万円

UBITEQ
UBIQUITOUS TECHNOLOGY

事業別売上高 (百万円)	前期売上高 実績	今期売上高 予想	前年比
映像事業	1,081	947	12.4%減
画像事業	2,043	2,960	44.9%増
モバイル・ユビ キタス事業	1,315	2,248	70.9%増
単体合計	4,441	6,156	-
香港	-	508	-
連結合計	4,441	6,665	50.1%増

映像事業

前期は当社映像エンジンシステム搭載の製品がディスコン(生産中止)になったことによる影響として、売上が20億円の減収。今期はリアプロジェクションTVへ本格進出を開始する。ターゲットは民生機器。

画像事業

前期は新紙幣導入によるATM(オートテラマシーン)端末の買い替え需要が発生し、ATM端末用組込みモジュールの受注は堅調。今期は、技術進化・顧客拡大・製品展開の3側面から受注拡大の機会を狙う。ターゲットは産業機器。

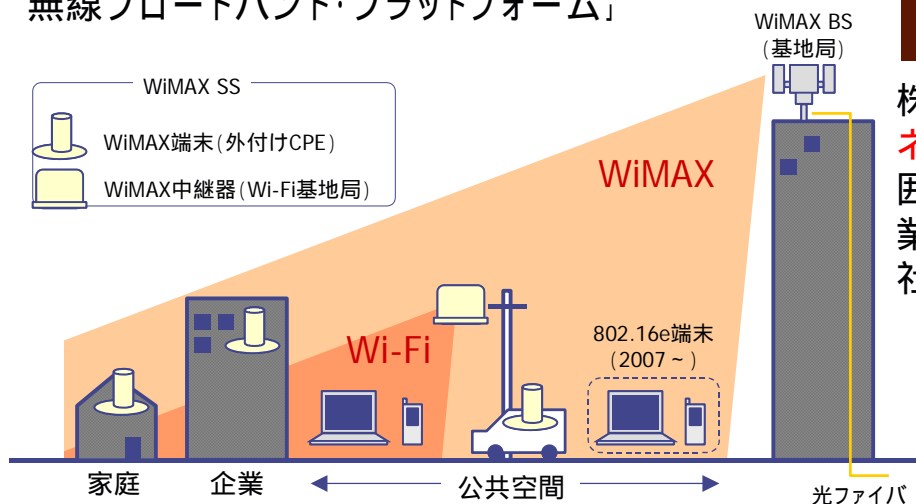
モバイル・ユビキタス事業

株式会社YOZANが提供予定のWIMAXブロードバンドワイヤレスネットワークの「設計・構築・運用」に対して、IRIユビテックが広範囲な技術支援を行う業務提携に合意し、両社合同でのWiMAX事業推進プロジェクトを開始しました。また、2005年7月には株式会社YOZAN様より当社に対し資本参加をいただきました。

実績

2005年5月	WIMAXの高速性を生かしたサービス企画に関するコンサルティング(継続中)
2005年5月	安心安全なサービス提供のためのセキュリティに関するコンサルティング(継続中)
2005年6月	IPv4/IPv6同時利用可能なIPインフラのネットワーク設計と構築(継続中)
2005年7月	WIMAX上での安定したストリーミング配信システムの設計・構築(継続中)
2005年9月	WIMAX全国展開へ向けてのコンサルティングおよび調査(予定)

「WiMAX & Wi-Fiハイブリッド
無線ブロードバンド・プラットフォーム」

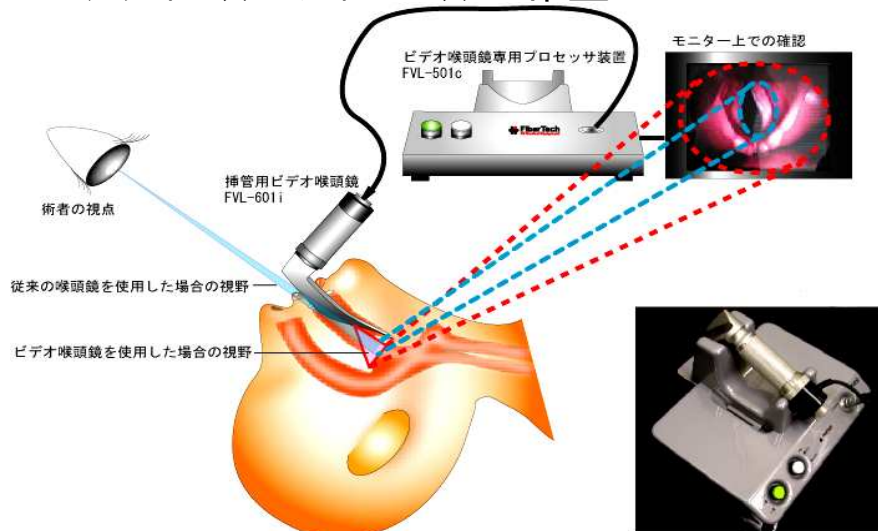


2005年6月期実績 売上:452百万円 営業利益: 81百万円



挿管用ビデオ喉頭鏡 販売開始 と ベンチャー技術大賞受賞

- 気管内挿管の危険性を排除できる製品
- 医療画像無線伝送特別研究会RC-46に参加
- ユビキタス環境下における医療画像伝送
- メディカルコントロールの確立



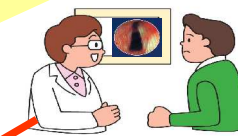
■メディカルコントロール実証実験の実 @香川大学医学部

医師によるメディカルコントロール

無線伝送による
高精細動画伝送

救急現場での気管内挿管

救急現場への指示



ISO9001:2000 の認証取得

医療機器の製造及び販売に関わる品質マネジメントシステム
ISO13485:2003の認証取得に加え、ISO9001:2000の認証も取得
全社で企業活動における高品質保持への意識高揚



ISO13485:2003
Certification
ISO9001:2000 Certification

3-13. 計画・展望 ファイバーテック ~IPプラットフォーム事業

2006年6月期計画 売上:974百万円 営業利益:9百万円



大阪大学工学部 栗津邦男教授を技術顧問に招聘

次世代医療用レーザー機器の研究開発を開始
自由電子レーザーを中心とした研究成果の医療分野へ適用させる開発研究
極細径内視鏡事業の将来への展開
診断と治療を同時に可能とするシステムの開発



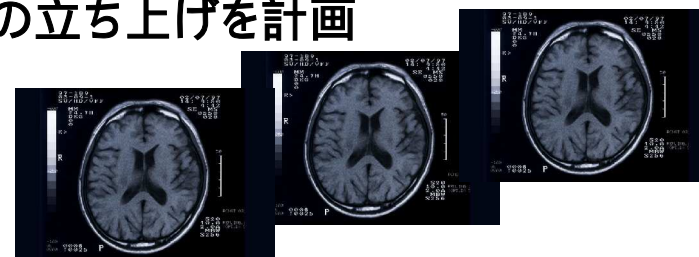
内視鏡用高性能極小レンズの開発

当社マイクロテクノロジーを駆使し、高画質・鮮明な画像を提供できる
0.3mm(最小)の内視鏡用レンズを開発
特殊アイリスを使用し、明るい映像を提供



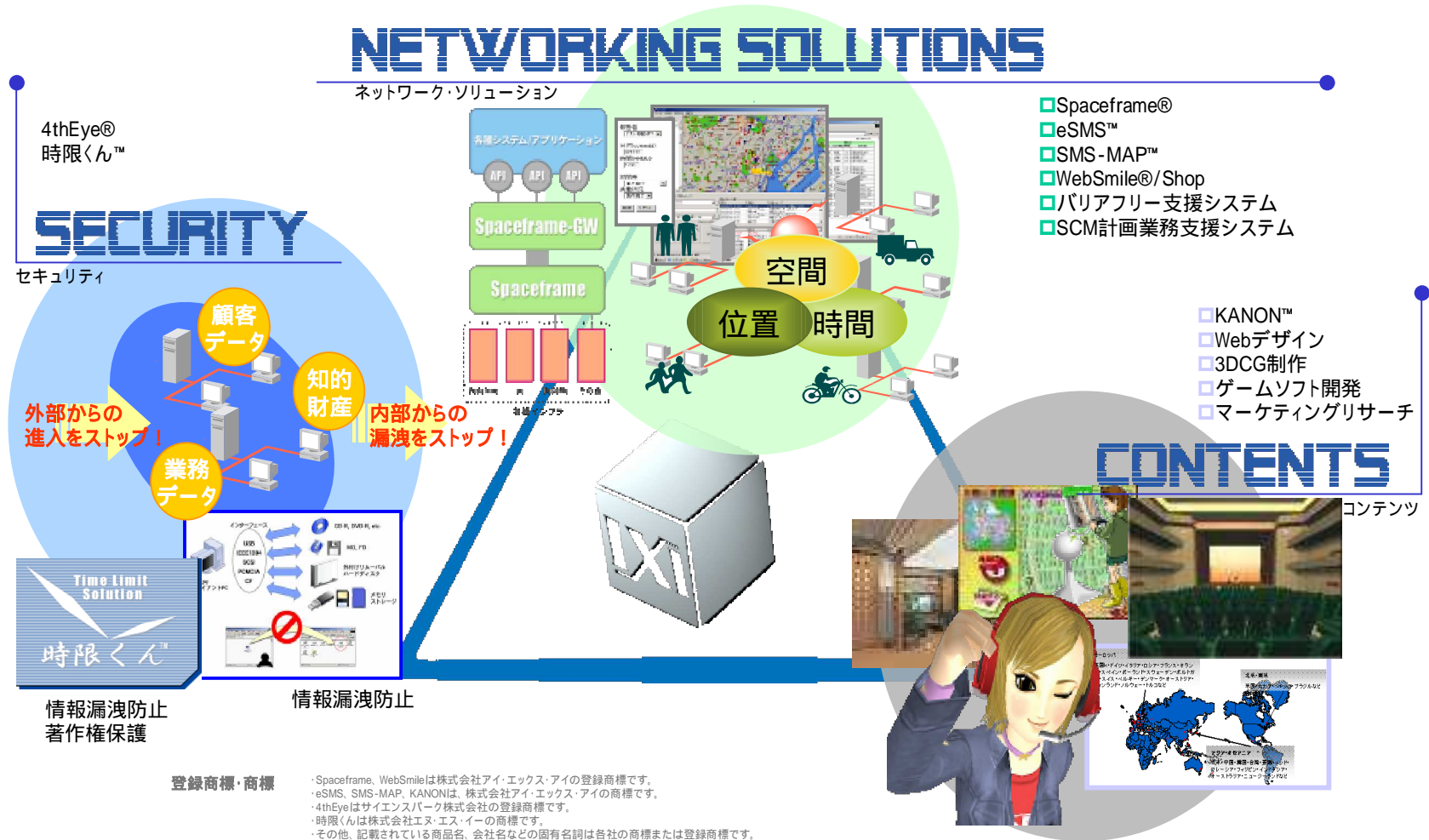
プレホスピタル事業の立ち上げ (予防医学分野)

CT画像から仮想内視鏡画像を構築・提供できるシステムの販売を計画
ワイヤレス極小心電計による健康管理事業の立ち上げを計画
ユビキタス予防医学分野の構築



事業内容

GISネットワークング、セキュリティ、コンテンツを三本柱にソリューションを提供



4 . IRIグループの全体戦略



【Everything on IP! & IP on Everything !】

20世紀の半導体技術のように、21世紀の産業創出のもととなる技術革新は
IP (Internet Protocol) 技術である

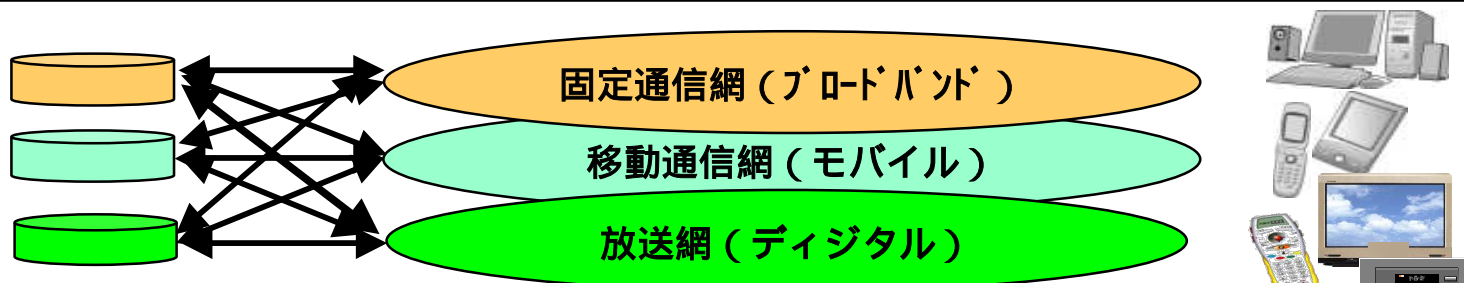
あらゆる情報、文化、社会活動をIPネットワーク上に実現していく！

4-2. IRIグループとは？

IP・テクノロジー・プロバイダー

IRIグループはIP(インターネット・プロトコル)という技術革新の担い手として、テクノロジーを各産業分野の主要企業に提供する企業グループです。=「IPテクノロジー・プロバイダー」

最終製品・最終サービスは、当社グループのテクノロジーを利用した顧客企業から提供されています。



	コンテンツ事業者	インフラ事業者	プラットフォーム事業者
直接顧客 ドメイン	ヤフー、楽天等 コンテンツ事業者	NTT、KDDI、SBグループ等 通信サービス事業者、法人IT部門	シャープ、松下、オムロン等 PC・家電・通信・産業機器メーカー
IRI グループ (事業規模)	ブロードバンドタワー (45億円) PoD (3億円) IRI - CT (6億円)	IRI本体 (7億円) IRIコミュニケーションズ (82億円)	IRIユビテック (45億円) ファイバーテック (5億円)

コンテンツ流通のためのテクノロジー

インフラ運用のためのテクノロジー

機器組込のためのテクノロジー

IRIは、産業界が必要とする最先端のIPテクノロジーを提供するために、最適なビジネスモデルを企画し実現する「IPテクノロジー・ビジネス・インキュベータ」であり、「直接金融のメリット」を活用した成長モデルを実現する企業です。

$$\text{IRIの企業価値} = \left\{ \begin{array}{l} \text{IRI本体のビジネス・インキュベーション能力} \\ + \quad (\text{各子会社の企業価値} \times \text{IRIの持株比率}) \\ + \text{現金・預金} \end{array} \right.$$

IRI本体のビジネス・インキュベーション能力とは、以下の4点に集約されます。

IPテクノロジーの最先端技術の専門家集団 + コーポレート・ファイナンスの専門家集団
+ コンプライアンス型法務の専門家集団 というプロフェッショナルの集合体

ビジネス企画力 3つのパターン(考案・改良・転換(既存事業のIP化))で最適なビジネス企画を行い、
事業パートナー[NTT、東京電力、NEC、キヤノン、松下電工、住友商事、SB等]を選択する力(M&Aを除く)

実例:BBTower、BBX/ICO(現IRI-Com)、IRI-CT

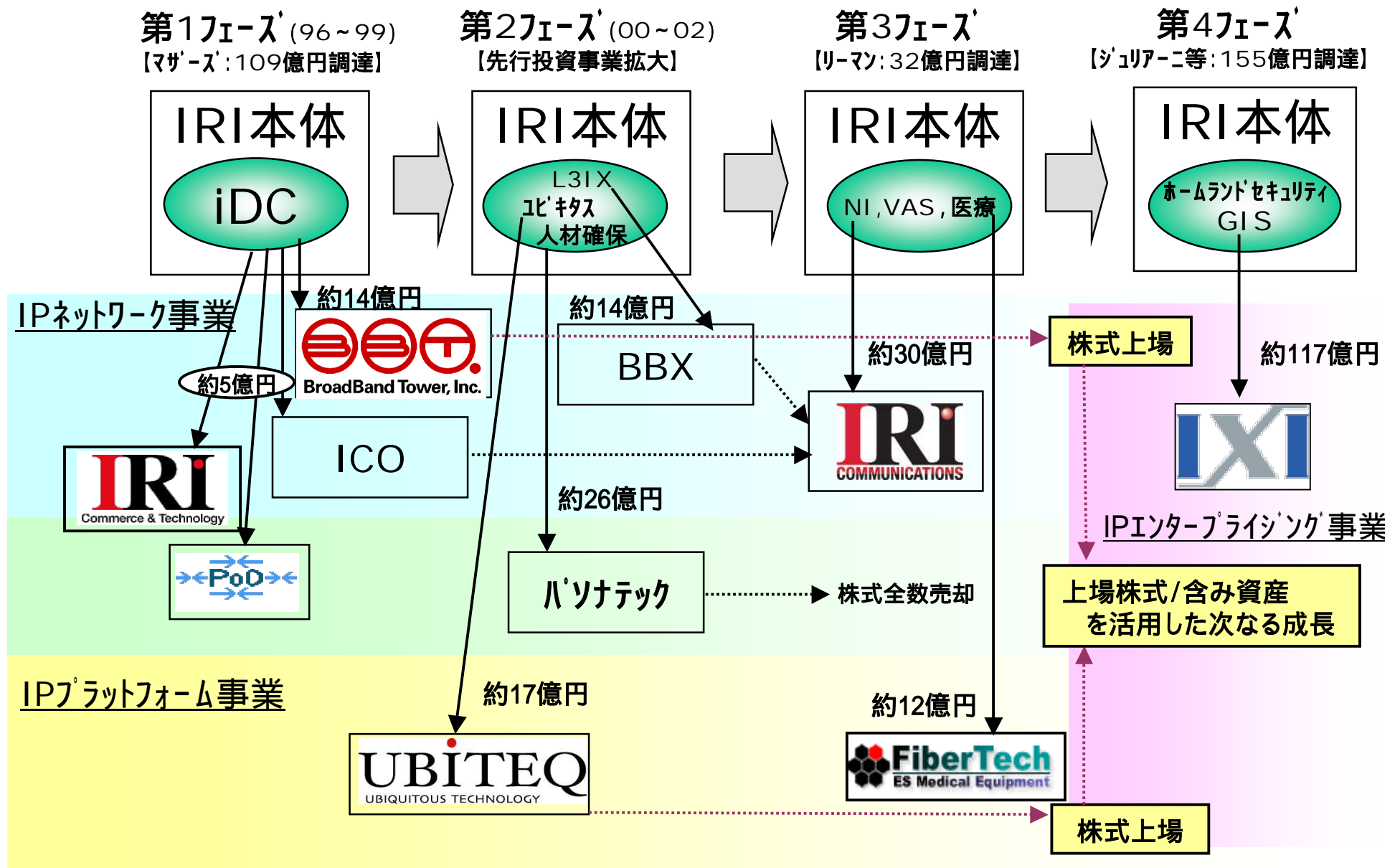
人材育成 / 獲得力 新規事業の立ち上げに最適な人材を育成 / 獲得する力

実例:IRI-Com、PoD

M&A力 グループの成長にとって最適な外部企業 / 外部事業を友好的に取込む力

実例:IRIユビテック、ファイバーテック、アイ・エックス・アイ

4-4.成長のための本体による事業創造メカニズム



4-5. IRIの歩みと方向性 ~ さらなる成長へ

常に先の時代を見据え、IP技術によって進化する新ネットワーク事業成長分野を創出

【黎明期】創業
 学術分野から
 産業へインター
 ネット技術・ノ
 ウハウを移転

【種蒔き・育成期】IRIグループの構築
 通信ネットワーク産業をIP技術で再構築

【新たな事業領域の開拓】

売上高
1,000億円

(1996) 創業
IRI
 Ubilabs Innovations

売上高
11億円

- (2004) **IRI COMMUNICATIONS** IPネットワーク事業の中核 (VAS, ADNI, MSP事業)
- (2003) **Ubiquitous Laboratories** グループ研究開発機構 (ユビキタス環境の研究)
- (2002) **TAU** IPプラットフォーム事業の中核 ユビキタス端末開発
- (2001) **PASONA TECH** 技術者派遣、オンサイト運用
- (2001) **BBX BROADBAND EXCHANGE** L3IX事業 広帯域シームレスネットワーク
- (2000) **BroadBand Tower, Inc.** IPネットワーク事業中核 ブロードバンドに特化したiDC
- (1999) **IRI Commerce & Technology** RBBTodayによるWebメディア展開
- (1997) **jpix** 国内最大級のIX

IXI

2005年8月 TOBによる子会社化
 IPエンタープライジング事業の創造

GIULIANI PARTNERS SAGE CAPITAL GROWTH

2004年11月資本・業務提携
 HLS事業の創造

FiberTech ES Medical Equipment

2004年10月 株式交換で子会社化
 医療IT分野への参画

**非IT産業へIP技術を注入し
 新たな産業を創出!**

売上高
200億円

【収穫・成長期】グループ企業の自立成長

UBITEQ
 UBIQUITOUS TECHNOLOGY

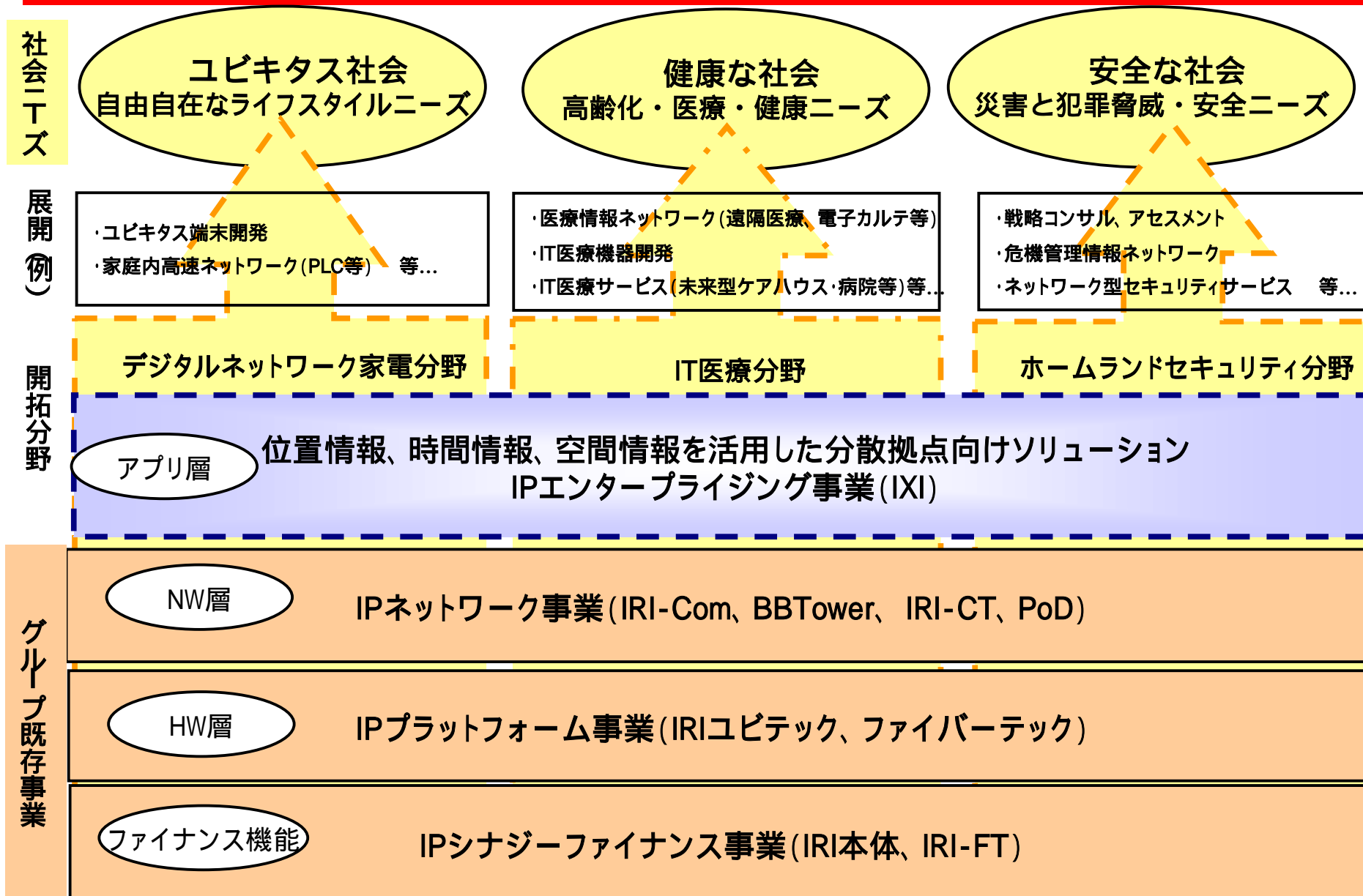
2005年6月
 大証ヘラクレス上場

BroadBand Tower, Inc.

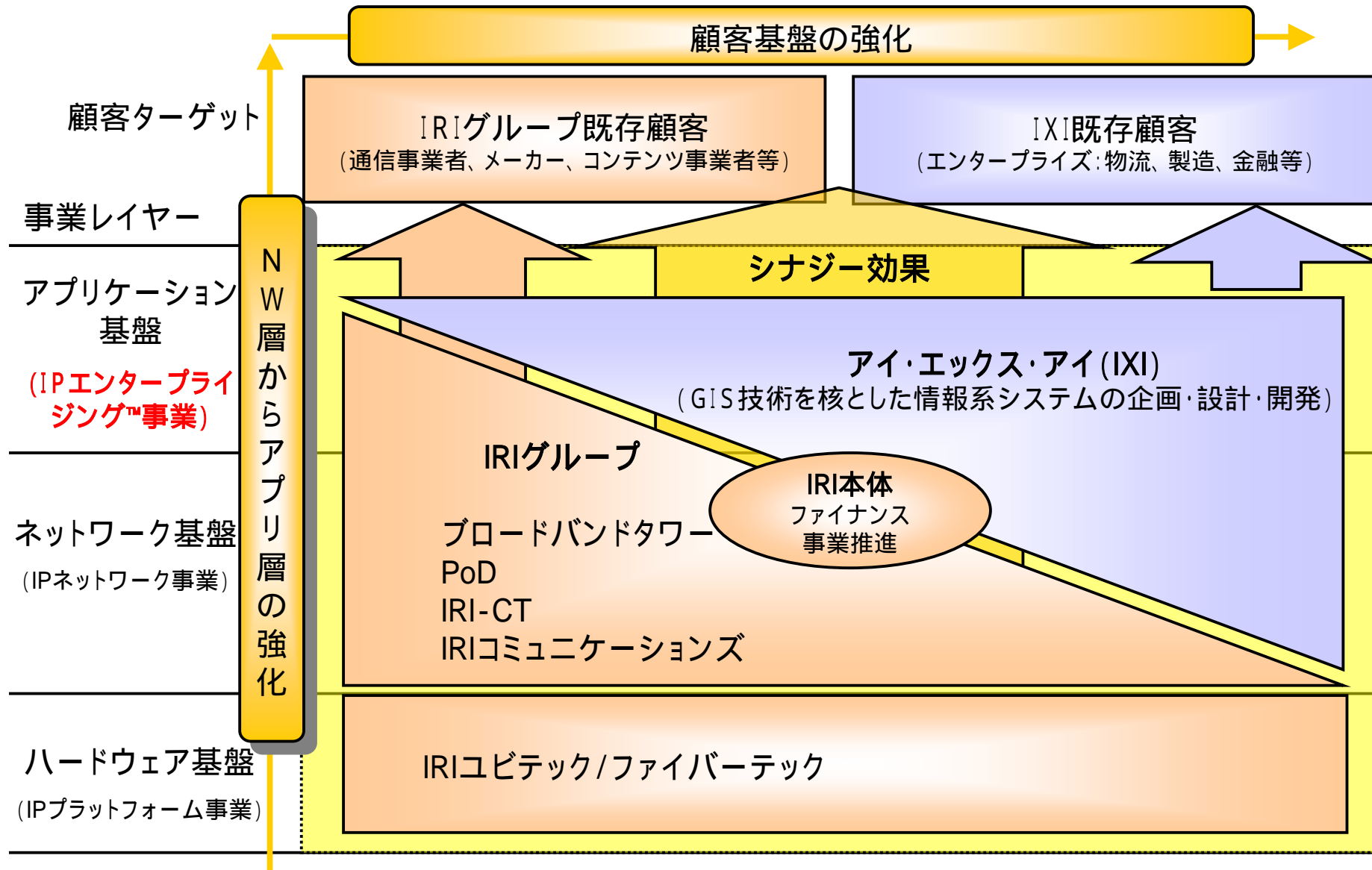
2005年8月
 大証ヘラクレス上場

1995年 2000年 2005年 200X年

4-6.経営戦略:IRIグループの事業開拓領域

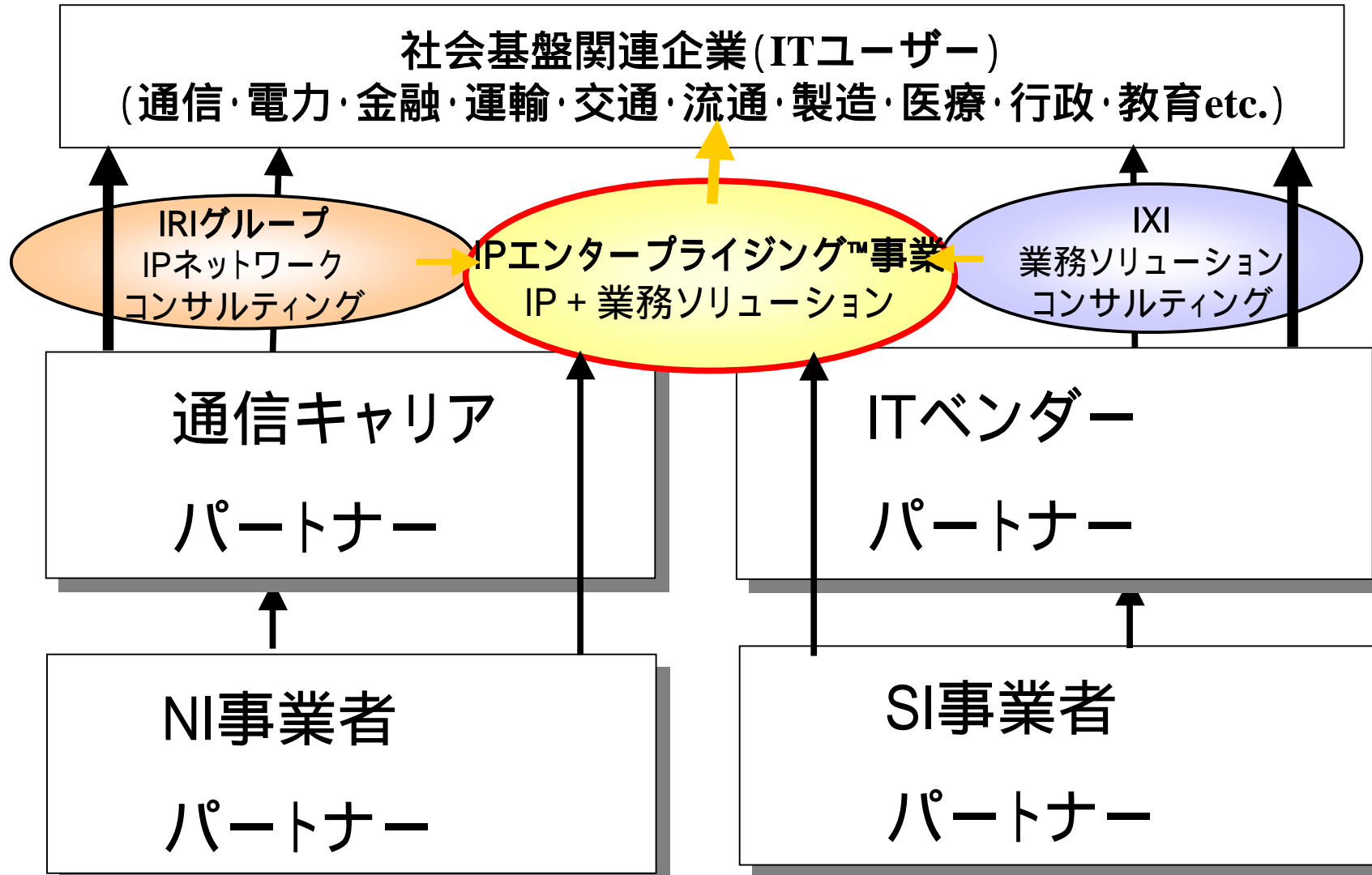


4 7.展開 GISエンタープライズ市場の開拓

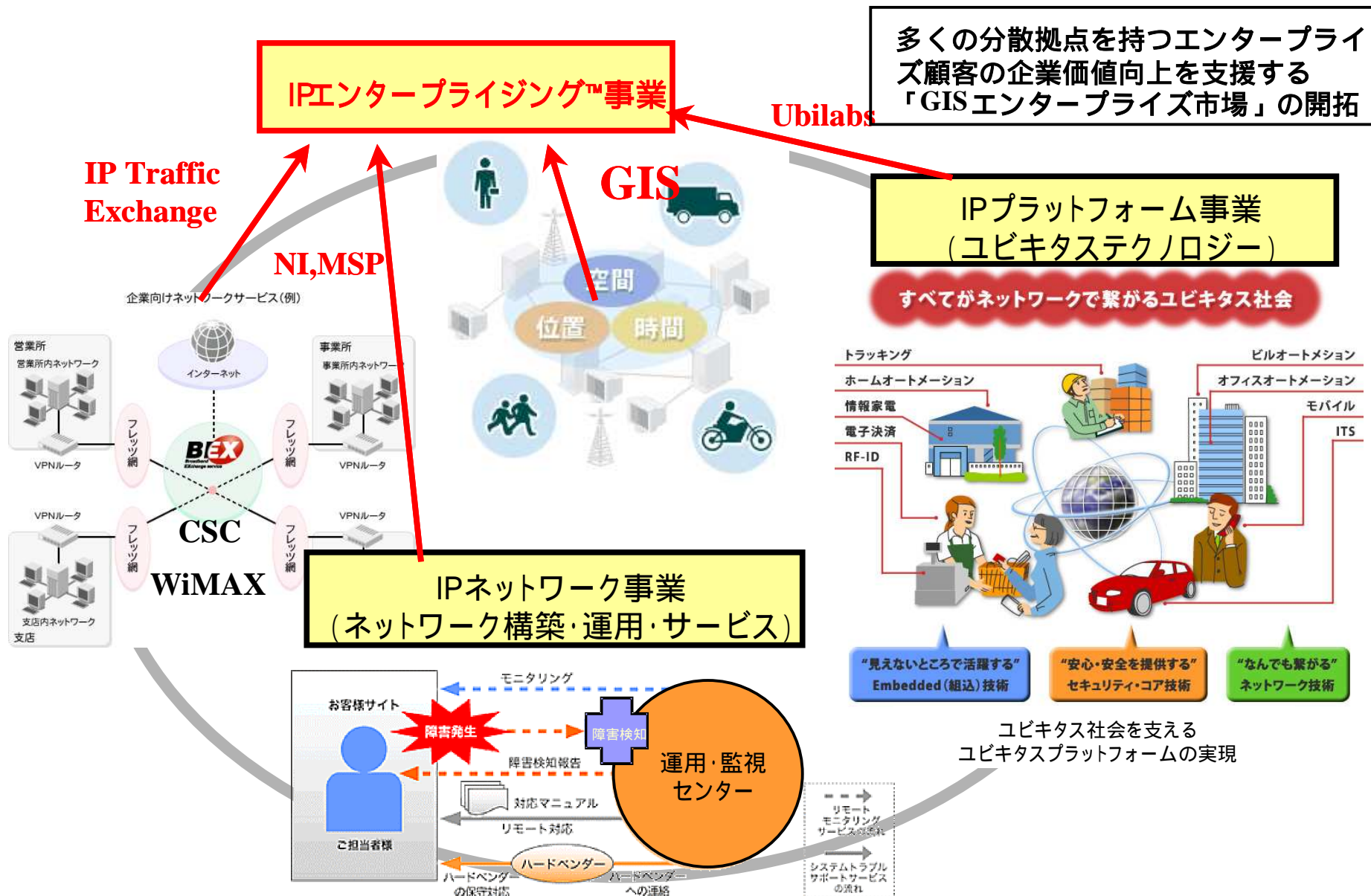


4 8. 展開 強みを活かして新たなマーケットクリエイターへ

「GISエンタープライズ市場」の開拓

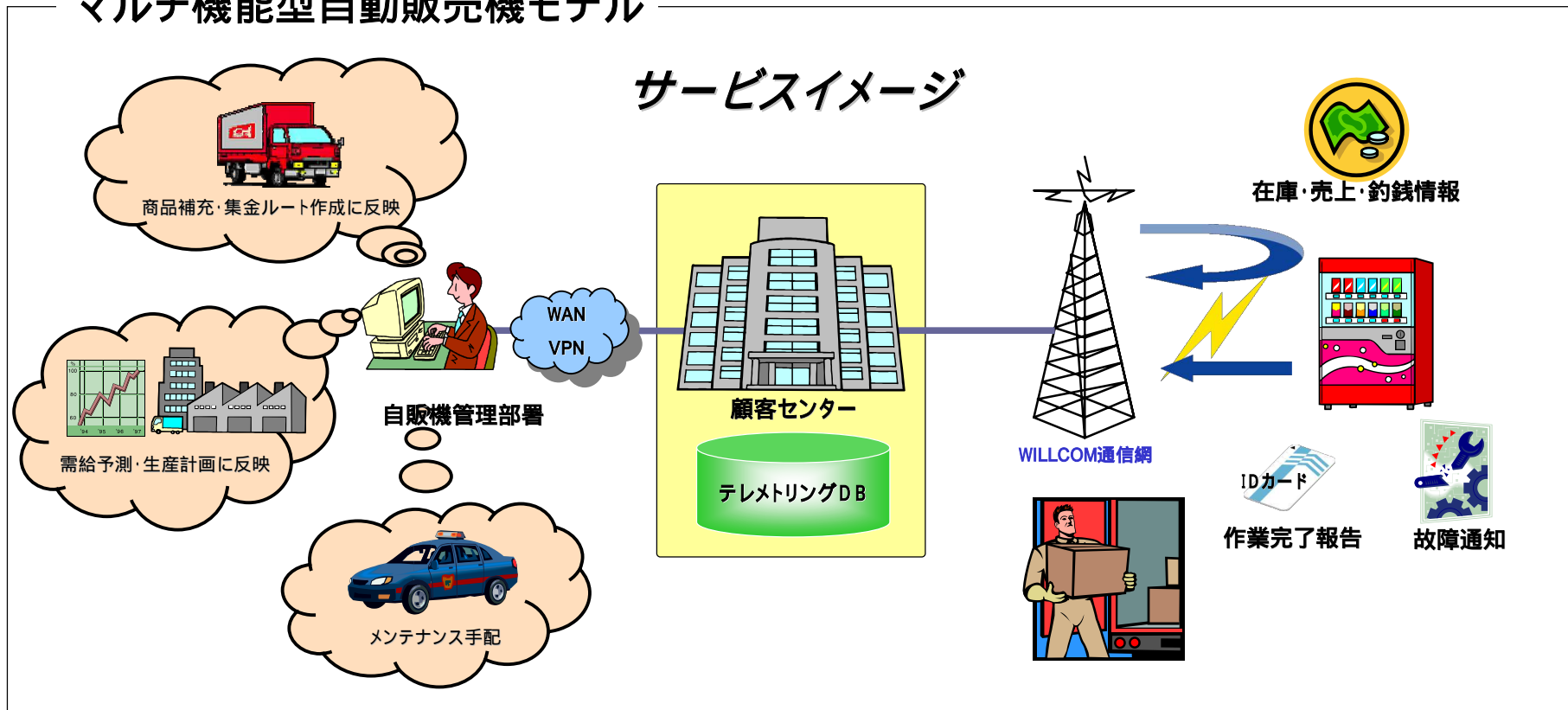


4-9. 展開 グループ間の事業連携



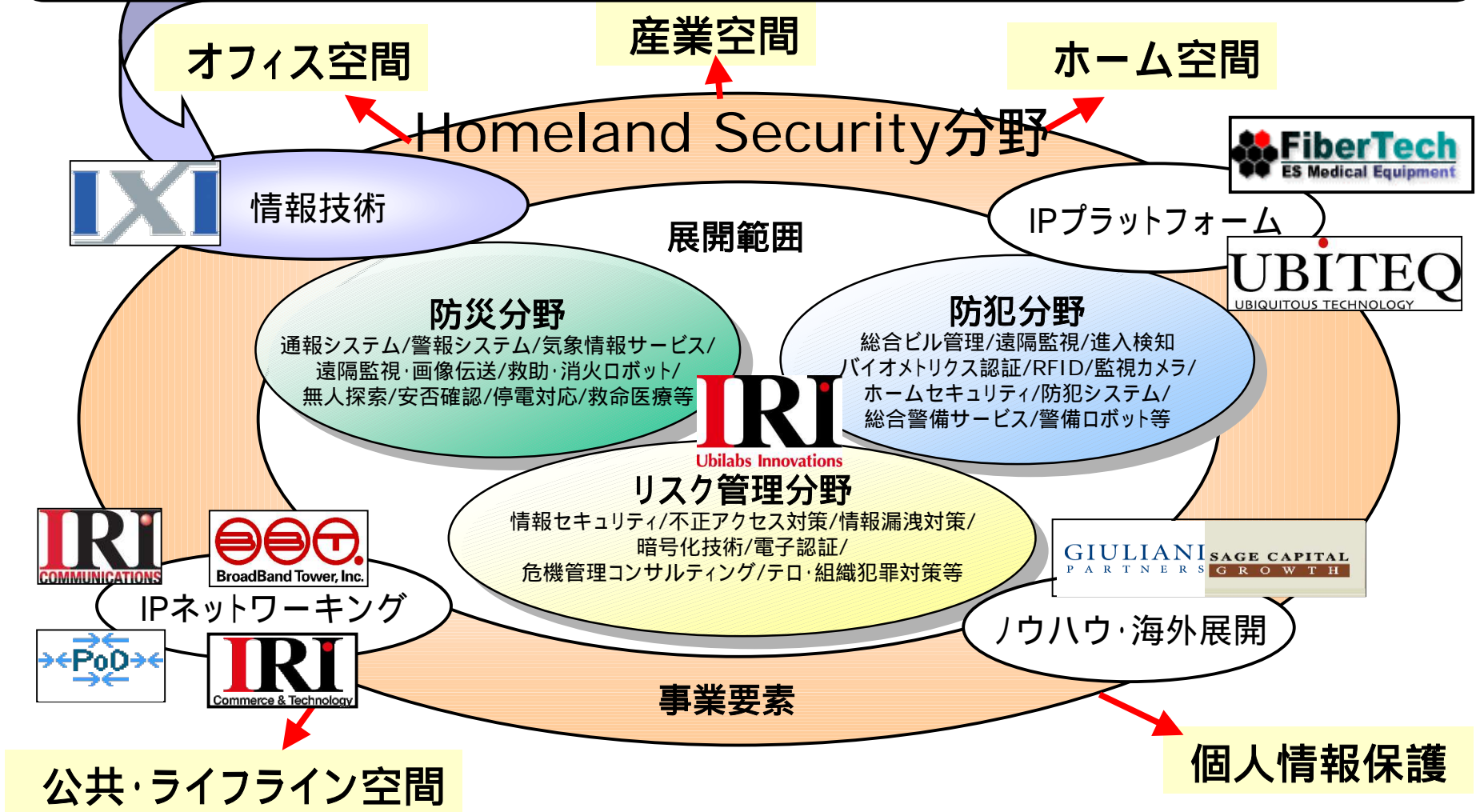
無線オンラインサービスでの協業

マルチ機能型自動販売機モデル



4 11. 展開 ホームランドセキュリティ分野の強化

IXIの持つGIS技術はホームランドセキュリティ分野に必要な情報活用
(位置情報、時間情報、空間情報)のキーテクノロジーとなる



4 12. 展開 インターネットと放送の融合への主導

- 【1】 ポスト・ブロードバンド → IPによるトリプルプレイ
(インターネット接続/電話/TV)
- 【2】 ポスト・モバイル3G → WiMAX
- 【3】 ポスト・放送 → ポータル動画、Gyao



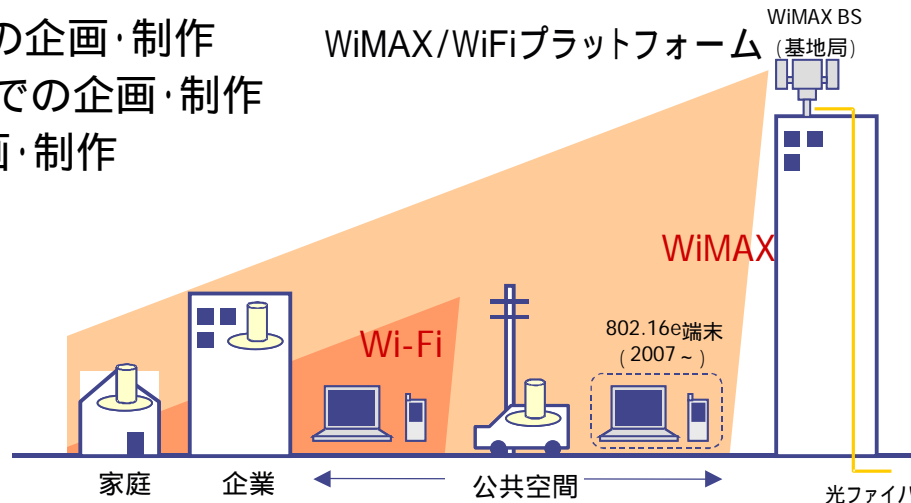
ブロードバンド配信

映像コンテンツの企画・制作
ヤフー(株)と共同での企画・制作
音楽番組の企画・制作



モバイル・ユビキタス

WiMAX/WiFiプラットフォーム (基地局)



IP放送プラットフォーム

